

攻
擊
精
神

軍需商會編纂部出版

東京
軍需商會發行

全

特117

121



始



緒言

攻撃精神ハ忠君愛國ノ至誠ト献身殉國ノ大節トヨリ
發スル軍人精神ノ精華ナリ武技之ニ依リテ精ヲ致シ
教練之ニ依リテ光ヲ放チ戰鬪之ニ依リテ捷ヲ奏スト
ハ歩兵操典ノ明示スル處ノモノニシテ攻撃精神ノ養
成並ニ之カ研究ハ吾人軍人タルモノ、終生ノ事業ナ
リ本書ハ著者カ攻撃精神ニ就テノ從來ノ研究ヲ筆ニ
シタルモノトス故ニ若シ多少タリトモ之レカ研究ニ
從事セラル、諸賢ノ爲メ其ノ參考タルヲ得ハ著者ノ
誠ニ幸ナリ

著者識

内容

攻撃精神

目次

第一章	攻撃精神ノ意義	一
第二章	攻撃精神ト軍人精神	八
第三章	攻撃精神ト軍人ノ人格	一四
第四章	攻撃精神ト軍人ノ任務	一九
第五章	攻撃精神ト國體	二二
第六章	攻撃精神ト忠君愛國	二五
第七章	攻撃精神ト禮儀	二八
第八章	攻撃精神ト武勇	三一
第九章	攻撃精神ト信義	三四
第十章	攻撃精神ト質素	三六
第十一章	攻撃精神ト大和魂	三九

第十二章	攻擊精神下名譽心	四〇
第十三章	攻擊精神下軍紀	四一
第十四章	攻擊精神下風紀	四二
第十五章	攻擊精神下協同一致	四三
第十六章	攻擊精神下忍耐	四四
第十七章	攻擊精神下服從	四五
第十八章	攻擊精神下意志ノ堅確	四六
第十九章	攻擊精神下率先躬行	四七
第二十章	攻擊精神下廉潔	四八
第二十一章	攻擊精神下突擊精神	四九
第二十二章	攻擊精神下教練	五〇
第二十三章	攻擊精神下劍術	五一
第二十四章	攻擊精神下射擊	五二
第二十五章	攻擊精神下體操	五三

第二十六章	攻擊精神下行軍	五三
-------	---------	----

攻擊精神 目次終

攻撃精神

第一章 攻撃精神ノ意義

第一 攻撃精神トハ何テアルカ
歩兵操典ノ綱領ニ曰ク

攻撃精神ハ忠君愛國ノ至誠ト献身殉國ノ大節トヨリ發スル軍人精神ノ精華ナリ武技之ニ依リテ精ヲ致シ教練之ニ依リテ光ヲ放チ戰鬥之ニ依リテ捷ヲ奏ス蓋シ勝敗ノ數ハ必スシモ兵力ノ多寡ニ依ラス精練ニシテ且攻撃精神ニ富メル軍隊ハ毎ニ寡ヲ以テ衆ヲ破ルコトヲ得ルモノナリ

ト即チ攻撃精神ハ忠君愛國ノ志操カ鞏固テアツテ勇敢ト耐忍ト自信カトニ富ミ

一、如何ナル危険ヤ悲惨ノ情況ニ遭遇スルモ

二、如何ナル困難ヤ缺乏ノ事項ニ出會スルモ

平然自若トシテ其ノ一身ヲ犠牲ト爲シ敵ヲ殲滅セネハ止マナイ氣概
ノ發動ノコトテアツテ我カ國固有ノ美風テアル處ノ所謂

一、大和魂ナルモノ、神隨テ

二、武士道ナルモノ、骨隨テ

アル而シテ又攻撃精神ハ

一、攻撃的ノ精神テ其ノ現ハル、トコロハ攻撃的ノ動作テアツテ又

二、加働的ノ精神テ其ノ現ハル、トコロハ加働的ノ動作テアツテ

之レニ依ツテ能ク先制ノ利ヲ得ルコトカ出來ルノテアル

第二 抑モ攻撃ト云フノハ精神的ノ方面ニ於テノ優勢ヲ占メテ自己ノ

一、兵力テアルトカ

二、技倆テアルトカ

ニ關シテノ弱點ヲ補フコトカ出來ルモノテ其ノ行動ノ

一、不意テ且迅速テアルコト

二、猛烈テ且果敢テアルコト

トニ依ツテ尙ホ更ラテアル故ニ弱點ノナキ軍隊テ攻撃精神カ旺盛テ
アツタナラハ勝利ヲ得ルコトハ明カナ事實テアル然シナカラ攻撃精
神ハ自己ヲ全フセントスル爲メニ生スルモノテハナク

一、生死ヲ論セサルトコロノ奮勵努力ト

二、身命ヲ賭スルトコロノ敢爲斷行ト

テ即チ斷々乎トシテ生死問題ヲ離レタル行動テ實ニ忠君愛國ノ至誠
ト獻身殉國ノ大節トヨリ發スル軍人精神ノ精華テアツテ斃レテ而シ
テ後ニ止ム的ノ精神テアル

第三 歩兵操典ノ綱領第四ニ曰ク

一、攻撃精神ノ鞏固

二、體力ノ強健

三、及武技ノ熟練

ハ歩兵必須ノ要件ナリ抑々歩兵戰闘ハ頗ル秘強ノ性質ヲ有スルモノ

ナルカ故ニ步兵ハ剛膽ニシテ耐忍ニ富ミ沈着ニシテ勇敢ナラサルヘ
カラス勝敗將ニ岐レントシ戦闘慘酷ヲ極ムルトキニ於テ特ニ然リ此
時ニ方リテハ敵モ亦既ニ我ト同一若ハ以上ノ苦境ニ在ルヘキヲ以テ
能ク毅然トシテ之ニ堪ヘ奮然トシテ邁カハ遂ニ敵ヲシテ抵抗ヲ斷念
セシムルニ至ルモノトス
ト又

騎兵操典ノ綱領第五ニ曰ク

- 一、鞏固ナル攻撃精神ト
- 二、旺盛ナル志氣ト

ハ實ニ騎兵必須ノ要素ナリ志氣旺盛ニシテ攻撃精神ニ富メル精練ノ
騎兵ハ能ク寡ヲ以テ衆ヲ破ルヲ得ルモノナリ
騎兵戦闘ノ要訣ハ一ニ機先ヲ制スルニアリ故ニ騎兵ハ決シテ敵ニ攻
撃セラル、コトナク必スヤ常ニ我ヨリ進ミテ敵ヲ攻撃スルヲ要ス
ト又

野戦砲兵操典綱領第四ニ曰ク

- 一、軍紀ノ嚴肅
 - 二、攻撃精神ノ鞏固
 - 三、志氣ノ旺盛
 - 四、體力ノ強健
 - 五、射撃及馭法ノ精熟
- ハ戦闘ノ遂行ニ缺クヘカラサル要件ナリ蓋シ砲兵此要件ヲ具備シ始
メテ上下一致堅忍不拔能ク砲兵戦闘ノ強ナル特性ニ堪ヘ危険慘烈
ノ極所ニ立チ

- 一、一門ノ大砲
- 二、一名ノ砲手

尙毅然トシテ戦闘ヲ繼續シ以テ其精華ヲ發揚スルヲ得ヘキナリ
ト又

重砲兵操典ノ綱領第六ニ曰ク

- 一、軍紀ノ嚴肅
- 二、攻撃精神ノ鞏固
- 三、志氣ノ旺盛及
- 四、體力ノ強健

ハ前上ノ要求ヲ達成スヘキ必須ノ條件タリ蓋シ

- 一、軍紀嚴肅ニシテ始メテ上下心ヲ一ニシ各々其任務ノ遂行ニ勉ムルヲ得ヘク
 - 二、攻撃精神鞏固、志氣旺盛、體力強健ニシテ始メテ勇敢沈着堅忍剛膽ナルヲ得ヘク
 - 三、兵器ノ操用依リテ以テ精ヲ致シ敵彈雨注ノ下死生ノ間ニ從容トシテ毅然戰鬥ヲ繼續シ以テ重砲兵ノ精華ヲ發揚スルヲ得ヘキナリ
- ト即チ攻撃精神ノ必要ナルコト以上ノ精神ニ依ツテ又明カテアル其レテ又戰鬥ニ於テ勝ヲ得ルモノハ攻撃テアツテ防禦ニ於テモ勝ヲ得

ント欲シタナラハ必スヤ攻撃ノ動作ヲ併セテ行ハネハナラヌノテアル而シテ戰鬥ハ凡テ極端ニ精神ヲ疲勞シ身體ヲ困憊シ且動物ノ弱點タルトコロノ愛生心ニ離反ヲスルヲ以テ此ノ攻撃精神カ鞏固テナカツタナレハ

- 一、情慾テアルトカ
- 二、慰安テアルトカ
- 三、疲勞テアルトカ

等ノ爲メニ知ラスノ其ノ勝利ニ向ツテ努力スルヲ缺クニ至リ之レカ爲メニ敗滅ニ陥ルコトカアルモノテ之レ即チ攻撃精神ノ發作ヲ必要トスル所以テアル斯ノ明治三十七八年ノ戰役ニ於テ我國ノ空前絶後ノ大捷モ皆此ノ敵ニ對シテ勇往邁進ヲシタル所謂攻撃精神ナルモノノ發動ノ結果テアツテ彼ノ

- 一、難攻不落ト稱セラレタル旅順ノ要塞モ
- 二、沙河ヲ奉天ニ於ケル未聞ノ大兵モ

凡テ此ノ精神ニ依ツテ粉碎ヲシ撃破ヲスルコトカ出來タノテアル故ニ吾人軍人タルモノハ宜シク此ノ精神ノ貴重ナル所以ヲ鑑ミ粉骨碎身以テ之レカ研鑽ヲ積ミ國軍ノ精神ヲ最高度ニ發揚スルコトヲ心掛ケネハナラヌ

第二章 攻撃精神ト軍人精神

第一 攻撃精神ト軍人精神トノ關係如何曰ク

攻撃精神ハ忠君愛國ノ至誠ト獻身殉國ノ大節トヨリ發スル軍人精神ノ精華ナリ

ト即チ攻撃精神ハ軍人精神ノ精華テアル

第二 軍人精神トハ何テアルカ

勅諭ニ曰ク

右ノ五ヶ條ハ軍人タランモノ暫クモ忽ニスヘカラスサテ之ヲ行ハンニハ一ノ誠心コソ大切ナレ抑モ此五ヶ條ハ我軍人ノ精神ニシテ一ノ

誠心ハ又五ヶ條ノ精神ナリ心誠ナラサレハ如何ナル嘉言モ善行モ皆ウハヘノ裝ニテ何ノ用ニカ立ツヘキ心タニ誠アレハ何事モ成ルモノソカシ況シテヤ此五ヶ條ハ天地ノ公道人倫ノ常經ナリ行ヒ易ク守リ易シト又

將校團教育訓令第一綱領ニ曰ク

軍人精神トハ何ソ忠誠ナリ、武勇ナリ、信義ナリ、義務ヲ守ルナリ、質素ヲ主トスルナリ、禮儀ヲ正クシテ軍紀ニ服従スル是ナリ軍人此精神アリ故ニ能ク心身ノ勞苦ニ堪ヘ能ク敵彈ニ對シテ動作ス凡ソ爲サ、ル可ラサル任務ニ當リテハ全力ヲ竭シテ之ヲ完了シ耻ヲ知り名ヲ惜ミ生ヲ捨テ、義ヲ取ル者此ノ精神アルニ由ルナリ蓋シ其意苟モ責任ヲ盡スニ在ルトキハ艱苦缺乏復タ避ル所ニ非ス不慮ノ事ニ遭ヒ困厄ノ境ニ臨ムモ自ラ思ヒ自ラ決シ遂ニ自ラ之ヲ處置シテ其宜ニ適フ者ナリ之ヲ要スルニ此軍人精神ナル者ハ其ノ義ノ在ル所ニ當リテ

ハ其ノ身ヲ犠牲ト爲スヲ樂ム故ニ此ノ精神ヲ養ヘハ則チ國家全體ノ幸福ヲ増ス者ナリ國家全體トハ何ソ全國ノ軍隊ナリ父祖ノ國ナリ皇室ナリ軍人精神ナル者ハ此三者ノ爲メ一日モ無カル可ラサルナリト又曰ク

此ノ軍人精神ナル者ハ人々ニ就テ之ヲ言ヘハ一朝一夕ノ能ク生シ得ル所ニ非ス漸ヲ以テ養ハサルヘカラス

ト又

軍隊内務書ノ綱領一ニ曰ク

兵營ハ艱苦ヲ共ニシ生死ヲ同フスル軍人ノ家庭ニシテ其起居ノ間ニ於テ軍紀ニ慣熟セシメ軍人精神ヲ鍛鍊セシムルヲ以テ主要ナル目的トス

軍人克ク其精神ヲ鍛鍊ス故ニ身心ヲ君國ニ獻ケ職分ノ存スル所水火且辭セス義ヲ重ンシ節ヲ尙ヒ耻ヲ知り名ヲ惜ミ死生ノ間ニ從容タリ此精神ヤ此國民ノ世世砥礪セシ所ノ精粹ニシテ國運ノ隆替戰爭ノ勝

敗一ニ其消長ニ繫ルモノトス是ヲ以テ上官ハ演習勤務等ノ際ハ勿論坐臥寢食ノ際ニ於テモ細心注意シ部下ヲシテ其鍛鍊ニ餘念ナカラシムヘシ蓋シ精神教育ハ唯精神ヲ以テ教育スルヲ得ヘシ而テ其教育ノ任ニ應ルモノヲ將校トス即チ將校ハ軍人精神ノ淵源ニシテ一國元氣ノ樞軸ナリ其教育薰陶ニ依リ國軍ノ精神ヲ最高度ニ發揚スルコト必要ナリ

ト又

野外要務令ノ綱領ニ曰ク

之ヲ要スルニ軍ノ眞價ハ一ニ軍人精神ニ在リ軍人精神トハ何ソ大和魂ナリ武士道ナリ此精神ヲ鼓勵シテ責ヲ重ンシ任ヲ竭シ斃レテ而シテ後ニ止ム是レヲ軍人ノ本分トス

ト即チ軍人精神ハ忠節、禮儀、武勇、信義、質素ノ五ヶ條ヲ守リ之レヲ貫クノニ五ヶ條ノ精神タルトコロノ誠心ヲ以テスル心ノコトテ所謂大和魂テアリ又武士道テアル其レテ凡テ能ク困苦缺乏ニ堪エ危険

ヲ懼レズ全力ヲ盡シテ任務ニ當リ

一、耻ヲ知ツテ其ノ名ヲ惜ミ

二、命ヲ捨テ、義ヲ取ルモノハ

此ノ軍人精神カアルカラテアル其レ故ニ軍人精神ハ軍人ノ生命ト云フコトカ出來ルノテ軍人精神ノ備ハツテ居ラヌ軍人ハ唯ノ人形ト同様テ何ノ役ニモ立タナイノテアルソレテ又軍人ノ任務ハ即チ命ヲ捨テ、君ノ爲メ國ノ爲メニ盡シ皇威國光ヲ海外ニ輝スノニアルノテ其ノ任務ヲ盡シテ責任ヲ完フスルコトノ出來ルノハ唯誠心ヲ以テ軍紀風紀ヲ守リ學術科ヤ諸勤務ニ勉勵ヲシ戰時ノ際ニ當ツテハ一身一家ノ利害得失ナトヲ顧ミス義ハ泰山ノ如ク重イモノテ生命ハ鴻毛ヨリモ輕イモノテアルト云フ覺悟ヲ以テ其ノ本分ヲ盡スニ在ルノテアル故ニ軍人ハ其ノ任務ヲ全フスル爲メニハ斃レテ而シテ後ニ止ム的ノ精神カナクテハナラヌ其レテ又此ノ精神カ眞ニ軍人ノ精神テアル

第三 又軍人精神トハ換言スレハ軍人ヲシテ完全ナル人格ヲ有セシム

ルトコロノ徳道精神テアル即チ

一、忠君愛國ノ熱情カ其ノ身ニ充溢ヲシ

二、義務ヲ守ツテ生死ナトハ更ニ顧リミス

三、勇猛果敢テアツテ義ノ爲メニハ水火ト雖尙辭セス

四、全力ヲ擧ケテ自己ノ軍職ニ精勵ヲシ

テ斃レサレハ止マサルノ精神テ

一、名譽ハ此ノ精神ニ依テ得ルコトカ出來

二、勳功ハ此ノ神髓ニ依テ現ハスコトカ出來

ルモノテアル故ニ此ノ精神カ鞏固テアツタナレハ身心ノ疲勞ヤ困憊ヲ鞭撻シテ其ノ向フヘキ所ニ向ハシメテ大義ノ爲メニハ身命ヲ忘レサスルノテアル之レカ爲メ

一、艱苦モ耐ヘルコトカ出來

二、缺乏ニ忍フコトカ出來

三、疲勞モ忘レルコトカ出來

- 四、困憊モ意ニ介セサルコトカ出来
 五、危険モ懼レサルコトカ出来
 六、悲惨モ物トモセサルコトカ出来
 斯クシテ軍隊ノ勤務ヲ忠實ニ完フスルコトカ出来得ルニ至ルモノテ
 アル之レニ反シ此ノ精神力鞏固テナイトキニハ卑怯ナ未練ナ振舞ヲ
 爲シ軍人トシテ最大ナル不名譽ヲ得ルニ至ルモノテアル
 第四 以上ニ依ツテ見レハ此ノ軍人精神ナルモノ、活動ハ即チ軍紀ニ
 依テ立チ軍事百般ノ要素ヲ靈活ナラシムルトコロノ根本テアツテ其
 ノ活動ノ如何ハ實ニ戦闘ノ勝敗ヲ左右スルモノテ換言スレハ我カ國
 獨特ノ精華タル攻撃精神テアル故ニ此ノ獨特ノ精華ヲ修養シ鍛鍊ヲ
 シテ益々之レヲ發達サセ以テ永久ニ此ノ光輝ヲ失ハサル覺悟カナク
 テハナラヌ。

第三章 攻撃精神ト軍人ノ人格

第一 人格トハ何テアルカ曰ク

人格トハ自覺ヲ以テ統一ヲスル人ノ人タル資格テアルト
 實ニ人格ノ備ハツタル人ハ其ノ舉止動作ノ間ニ於テ自ラ犯スヘカラ
 サル威嚴ヲ有シ人ヲ感化スル力ヲ有シ自然ニ好愛敬慕ノ念ヲ起サシ
 ムルモノテアル

第二 軍人ハ皇室ノ藩屏テ又國家ノ干城テアル其ノ完備ヲシテ居ル人
 格ハ實ニ最大緊要ナル素質テアツテ此ノ人格ナクシテハ吾人ノ存在
 ヲ許サナイノテアル其ノ一言一行悉ク部下ヲシテ仰ヒテ之ヲ則ラシ
 ムルコト恰モ形影相伴フカ如ク草木ノ風ニ靡クカ如クシ吾人ヲシテ
 一、眞ニ價值アルトコロノ職責ヲ盡サシメ
 二、眞ニ價值アル人トナラシムルモノ
 ハ此ノ圓滿ナル人格ヲ措テ他ニハ求ムルコトハ出来ナイノテアル其
 レ故此ノ人格ヲ修養シ高上スルコトハ吾人軍人タルモノ、終生努力
 セネハナラヌトコロノモノテアル

第三 軍隊内務書綱領ノ二ニ曰ク

上官ハ隊中ニ在ルト否トヲ論セス其言行總テ部下ノ儀表タラサルヘカラス故ニ上官ハ常ニ

- 一、氣品ヲ高尚ニシ
 - 二、行狀ヲ端正ニシ
 - 三、其ノ態度服裝ヲ正クシ
 - 四、篤貌ノ中自ラ威容ヲ存シ
- 以テ部下ヲシテ己レヲ敬愛セシムルコト猶ホ幼兒ノ其嚴父ニ於ケルカ如クナラシムルヲ要ス就中下士ハ常ニ兵卒ト起居ヲ共ニスルモノナルカ故ニ其言動ノ兵卒ニ感染スルコト最モ甚シキ所以ト百ノ訓誨ハ一ノ模範ニ如カサルコトヲ考ヘ克己堅忍深ク其躬行ヲ慎ミ兵卒ニ接スルニハ常ニ懇切公平ヲ旨トシ而モ其身分ノ尊嚴ヲ保チ以テ兵卒ヲシテ己レニ信賴セシムルコト猶ホ幼兒ノ其慈母ニ於ケルカ如クナラシムルヲ要ス

壯丁ノ始メテ入營スルヤ生活狀態ノ劇變ニ依リ頗ル其心ヲ刺戟シテ銳敏ナラシムルモノアリ故ニ上官ハ始メヨリ懇篤ニ之ヲ誘導シ漸次營内ノ起居ニ慣レシメ遂ニ兵營生活ハ一舉一動各々規準スル所アリテ苟モ放律偷安ヲ許サス些少ノ怠慢過失モ必ス上官ノ矯正ト督責トヲ免レサルコトヲ悟ラシメ以テ自然ニ其品性ヲ謹嚴方正ナラシムルト同時ニ又諄諄之ヲ訓育シ明治十五年軍人ニ賜リタル

勅諭ノ御趣意ヲ銘肝セシメ

一、我國體ノ萬國ニ冠絶セル所以ト

二、聖朝御歷代ノ高德ト

ヲ講話シ兼テ古今忠勇義烈ノ事蹟ヲ述ヘ又諸規則典範類ヲ説明シテ近世戰鬪ノ性質ヲ知ラシメ以テ戰爭ノ勝利ハ軍人精神充溢シ軍紀克ク行ハレ協同一致ノ觀念熾ニシテ勇往邁進スル軍隊ニ歸スルモノナルコトヲ解セシムヘシ

ト以上ノ如キ精神ヤ行爲ハ高潔ナル人格ヲ具備スルモノテナケレハ

必スヤ部下ノ屬望ヲ繫持シ威嚴ヲ保持スルコトハ出來ナイノデア
ル

第四 步兵操典ノ綱領第五ニ曰ク

軍隊ノ志氣ハ旺盛ナラサルヘカラス狀況困難ナルトキニ於テ特ニ然
リ抑モ指揮官ハ軍隊志氣ノ中心ナリ故ニ常ニ士卒ト苦樂ヲ俱ニシ率
先躬行部下ノ儀表トシテ其ノ尊信ヲ受ケ戰況慘烈ノ極所ニ立チ勇猛
果敢且沈着ニシテ部下ヲシテ望ミテ山嶽ヨリモ重キヲ感セシムルノ
德量氣概ナカルヘカラス

ト吾人殊ニ指揮官タルモノ、職責タル豈大且重ナラスヤ而シテ之レ
等ハ凡テ先ツ自己ノ人格ヲ高潔ニシテ豊富ナル智識ト技能ト高尚ナ
ル識見トヲ涵養シ躬行實踐以テ其ノ精神ト體力トヲ最高度ニ發揚セ
ネハナラヌノデア

第五 步兵操典第一部第二十二ニ曰ク

不動ノ姿勢ハ軍人基本ノ姿勢ナリ故ニ常ニ嚴肅端正ナラサルヘカラ

ス軍人精神内ニ充ツルトキハ外容自ラ嚴正ナルモノトス

ト是レ人格ノ修養上吾人ノ取リテ銘肝スヘキ金言デア

ル而シテ品格
容儀ハ外形ニ現出セル形態ナレトモ外形ハ内心ノ表出ナル故
内心
ニ於テ端正高尚ナル修養カナクハ又端正高尚ナ容儀品格カアルコト
ハナイノデア

ル其レテ又外容ノ端正テ嚴肅ナノハ又内心ノ端正テ嚴
正ヲ來ス所以デア

ル故ニ此ノ内容及外容ト相共ニ修メテ始メテ完全
ナル人格ノ人トナルコトカ出來ルノデア

第六 以上ニ依ツテ見ルノニ此ノ人格ハ精神的ノ能力ト德義的ノ完全
ナル資格ニ基イテ人ヲシテ畏敬ノ心ヲ起サスル所ノ一ノ性質デアツ
テ吾人軍人トシテ如何ニ必要ナルカヲ知ルコトカ出來ルモノテ又此
ノ人格ハ攻撃精神ノ依テ來ス一ノ素因タルトコロノモノテ人格ノ如
何ハ攻撃精神ノ盛否ニ至大ノ關係ヲ有スルコトハ明カデア

第四章 攻撃精神ト軍人ノ任務

第一 人ハ己レカ本分ニ安ンシテ其ノ職務ヲ好ミ愛スルトコロノ覺悟
カナクテハナラヌ其レテ人ニハ又各々其ノ守ルヘキ職ヲ有スルモノ
テアル故ニ何人タリトモ宜シク專心其ノ職ヲ勵ミ行ハネハナラヌノ
テアル即チ

- 一、百姓ハ其ノ農業ヲ勵マネハナラス
 - 二、商人ハ自己ノ商業ヲ勵マネハナラス
 - 三、漁夫ハ其ノ漁業ヲ勵マネハナラス
 - 四、文人ハ文事ノ職責ヲ完フセネハナラス
 - 五、武人ハ武職ヲ勵マネハナラスノテアル
- 斯クノ如ク各々其ノ職務ニ忠實ニシテ始メテ協同一致ノ實ヲ擧ケ文
化モ進ミ以テ皇威國光ヲ海外ニ宣揚スルコトカ出來ルノテアル

第二 野外要務令ノ綱領ニ曰ク

實敵及危險悲惨ハ竟ニ平時ニ示ス能ハス然レトモ戰時之ニ耐ヘ克ツ
ノ道ハ則チ有リ義務ヲ守リテ死生ヲ顧ミス一身ヲ犠牲ニシテ君國ノ

爲メニ盡ス是ナリ之ヲ要スルニ軍人ノ眞價ハ一ニ軍人精神ニ在リ軍
人精神トハ何ソ大和魂ナリ武士道ナリ此精神ヲ鼓勵シテ責ヲ重ンシ
任ヲ竭シ斃レテ而シテ後ニ止ム是レヲ軍人ノ本分トス

ト即チ軍人タル者ノ本分ハ命ヲ捨テ、君ノ爲メ國ノ爲メニ働ライテ
君ノ御威光ト國ノ光トヲ海外ニ輝スノテアル之レカ爲メ

一、平時ニ在ツテハ誠心ヲ以テ能ク軍紀風紀ヲ守リ學術科ヤ諸勤務
ニ勉勵シ

二、戰時ニ在ツテハ一身一家ノ利害得失等ヲ顧慮スルコトナク義ハ
山嶽ヨリモ重ク大切ナモノテ君ノ爲メ國ノ爲メニ捨テル命ハ鳥ノ
毛ヨリモ輕キモノテアルト云フ覺悟ヲ以テ働イテ

即チ斃レル迄ハ實行ヲスルト云フ精神ヲ以テ動作ヲスルコトテ又之
レハ攻撃精神ヲ養成シ發揚シ得ヘキ神髓テアル

第五章 攻撃精神ト國體

第一 我大日本帝國ハ

一一

- 一、初メハ豊葦原中國ト云ヒ又瑞穗國トカ浦安國トカ大和國トカ扶桑國トカ大八洲國トカ色々ノ名稱カ付ケラレテアツタノテ今ノ日本ト云フノハ日出國ト云フ意味テ之レハ上古ニ三韓ヤ支那ト交通ヲ始メタ時ニ彼等カ敬マツテ云ツタ名稱テ其レカ遂ニハ萬古不易ノ國號ト爲ツタノテアル
- 二、皇室ハ萬世一系テ皇統連綿トシテ寶祚ノ盛ンナコトハ千古一日ノ如クテアル其レテ 今上天皇陛下ハ實ニ之レカ第百二十二代ニ當ラセ給フノテアル
- 三、建國ハ大古ニ在ルノテ紀元前幾年ヲ經タカハ知ルコトハ出來サレトモ神武天皇ノ大和國橿原宮ニテ御即位遊サレシ其ノ年ヲ紀元ノ元年トシ 今上天皇陛下ノ大正元年ハ實ニ二千五百七十二年テアル
- 四、臣民ハ皆血統カ同シテアツテ國家ハ恰モ一家族ト同様テ君ノ臣

民ヲ愛シ給フコトハ恰度母カ其ノ子供ヲ愛スルカ如ク又臣民ノ君ニ懐イテ居ルコトハ子供カ其ノ父ニ事ヘテ居ルト同様テアル

五、地勢ハ亞細亞大陸ノ東南ニ沿フテ大平洋ノ西北ニ列ナル數多ノ島嶼カラ成立シ

- 1、其ノ中央ニ位置ヲシテ居ル一番大キナモノヲ本洲
- 2、其ノ西ノ方ニ在ルモノヲ九洲
- 3、其ノ南ノ方ニ在ルモノヲ四國
- 4、其ノ西南端ニ在ルモノヲ臺灣
- 5、其ノ北ニ在ルモノヲ北海道
- 6、尙其ノ北ノ端ニ位置スルモノヲ樺太
- 7、其ノ西ニ在ツテ亞細亞ノ大陸ト連絡セルモノヲ朝鮮ト云ヒ其ノ他無數ノ小サキ島ヨリ成ルノテアル
- 六、土地ハ一帯ノ山脈カ國土ヲ貫通シテ居ツテ河流ハ縱横ニ貫流シ地味カ豊沃テ五穀カ繁殖シ尙ホ草ヤ木カ山ヤ野原ニ茂リ又鳥獸カ

多ク河ヤ海ニハ魚介ノ類カ澤山居ルノテアル

七、氣候ハ國土カ細長クテ南カラ北ニ走ツテ居ル故土地ニ由ツテハ自然ト寒暖ノ差ハ生スレトモ大體ニ於テハ其ノ溫和テアルコトハ世界ニ又トナイノテアル

八、風俗ハ國民カ正直テ勤勉テ溫雅テアル其レテ又能ク道義ヲ重ンシテ文ヲ好ミ又武ヲ尙ヒ進取ノ氣象ニ富ンテ居ルノテアル

九、政治ハ開關以來天皇カ文武ノ大權ヲ掌握セラレテ居ルノテ幕府ノ時代ニハ一時武門ノ者ニ委ネラレタコトカ有リタレトモ明治ノ御世ニ至リ昔ノ如クニ成リ憲法ヲ發布セラレテ立憲ノ政治トナツタノテアル

十、國運ハ明治ノ始メヨリ歐米各國ノ學術技藝ヲ採用シテ日進月歩ノ進歩ヲ來シテ著シク進歩シ明治卅七八年ノ戰役後益々其ノ名勢ヲ世界ニ輝カシテ其文明強國ノ列ニ加ハリ今ヤ朝鮮ヲ合シテ我カ有トスルニ至ツタノテアル

ト以上述ヘタル我カ國體ノ宇内ニ冠絶シテ居ル所以ト殊ニ

一、寶祚ノ隆盛ナル天壤ト共ニ窮極ナク宏麗ニシテ莊美楠矗ニシテ煥炳洋ノ東西ヲ問ハス他ニ其ノ比ノナイ我カ大和民族ノ宗家タル皇室ノ尊嚴ト

二、吾人ノ祖先代々ノ能ク武勇剛毅ヲ尙ンテ先天的ニ皇室國家ノ爲メニ一身ヲ犠牲ニ供スルコトヲ屑シトシ君國ノ爲メニハ如何ナル困苦ヲモモノトモセサル攻撃精神ニ富ンテ居ツタトコロノ事實トヲ知ラシムルコトハ攻撃精神ヲ發揚シ之ヲ鞏固ナラシムル爲メノ一ノ要素テアル

第六章 攻撃精神ト忠君愛國

第一 人トシテ誰カ其ノ國ヲ愛セサルモノハナク又其ノ君ヲ敬セサルモノハ無イノテアル其レテ若シモ

一、國ヲ愛セサル者カアツタナレハ其レハ即チ國賊テ

二、君ヲ敬セサル者カアタナレハ其レハ實ニ不忠ノ者テ
 アル況ンヤ上ニ二千五百有餘年來皇統連綿タル此ノ金甌無缺ノ皇
 室ト仁慈ナル至尊トヲ奉戴セル我カ大日本帝國ニ於テハ尙ホ更テ
 アル殊ニ軍人タル者ハ皇室ノ藩屏タリ國家ノ干城タルモノテ此ノ
 護國ノ重任ヲ盡サネハナラヌモノ故一層此ノ心ノ堅固テナカツタ
 ナレハ必スヤ此ノ大任ヲ全クスルコトハ出來ナイノテアル

第二 勅諭ニ曰ク

一、軍人ハ忠節ヲ盡スヲ本分トスヘシ
 凡ソ生ヲ我國ニ稟クルモノ誰カハ國ニ報ユルノ心ナカルヘキ況シテ
 軍人タラン者ハ此心ノ固カラテハ物ノ用ニ立チ得ヘシトモ思ハレス
 軍人ニシテ報國ノ心堅固ナラサレハ如何程技藝ニ熟シ學術ニ長スル
 トモ猶偶人ニヒトシカルヘシ其隊伍モ整ヒ節制モ正クトモ忠節ヲ存
 セサル軍隊ハ事ニ臨ミテ烏合ノ衆ニ同シカルヘシ抑國家ヲ保護シ國
 權ヲ維持スルハ兵力ニ在レハ兵力ノ消長ハ是國運ノ盛衰ナルコトヲ

辨へ世論ニ惑ハス政治ニ拘ラス只一途ニ己カ本分ノ忠節ヲ守リ義ハ
 山嶽ヨリモ重ク死ハ鴻毛ヨリモ輕シト覺悟セヨ其操ヲ破リテ不覺ヲ
 取り汚名ヲ受クルナカレ
 ト又或人ノ曰ク

愛國心ト云フノハ忠君愛國ノ精神テ即チ國家ヲ愛スル念慮ヲ云フノ
 テ恰モ國民カ家族ノ一人トシテ其ノ家族ヲ愛スル精神ト同様テアル
 其レテ我カ日本ノ國ハ建國以來斯ニ三千年君臣ハ皆同祖テ忠孝ハ一
 致ヲシテ居ツテ天皇陛下ノ御威光ハ世界ニ輝キ其ノ國體ハ世界ニ又
 ト無キ立派ナ國テアル故ニ此ノ又トナキ國ノ民タルモノハ皆此ノ忠
 君愛國ノ心カ無クテハナラヌノテアル況ンヤ軍人タルモノハ特ニ皇
 威ヲ發揚シ國家ヲ保護スル職分ヲ有シテ居ルモノ故能ク

一、義ヲ重ンシテ生ヲ輕ンシ

二、君アルヲ知ツテ身アルヲ知ラス

三、國アルヲ知ツテ家アルヲ知ラス

斯クシテ其ノ威念ヲ益々鞏固ニセネハナラヌモノテアル
ト實ニ忠君愛國ハ我國民ノ生命テアリ武士道ノ精神テ又攻撃精神ナ
ルモノ、神隨テアル故ニ國ニシテ之レカ有ツタナレハ榮ユルモノテ
之レカ無カツタナレハ衰エルモノテアル而シテ之レヲ發揮スルモノ
ハ實ニ吾々軍人テアル故ニ能ク心シテ此ノ美德ヲシテ光輝アラシム
ル如クニ心掛ケネハナラヌノテアル

第七章 攻撃精神ト禮儀

第一 人ノ人タル所以ハ禮儀カアルカラテアル人ニ禮儀カナカツタナ
レハ恰モ禽獸ト同様テアル其レテ此ノ社會ナルモノハ人類カ相集
マツテ組織シテ居ルモノテアツテ其ノ間ニハ必スヤ上下尊卑ノ等
差ノアルコトハ免レナイノテアル故ニ其ノ間ニ禮儀ナルモノカア
ツテ之レヲ節制スルノテナカツタナレハ

一、上下ハ相犯シ

二、尊卑ハ相越ヘ
三、親疎ハ相争ヒ
四、貧富ハ相奪ヒ

社會ノ秩序ハ麻ノ如クニ亂レテ其ノ安寧ハ得テ望ムコトハ出來ナイ
ノテアル其レテ軍隊モ亦壯丁ナルモノ、集マツテ成セル一ツノ社會
テアツテ其ノ間ニ禮儀ノ重キヲ要スルコトハ一般社會ニ於ケルヨリ
ハ以上テアル其レト云フノハ即チ

一、軍隊ノ團結ヲ鞏固ニシ
二、上下ノ秩序ヲ嚴正ニシ
三、軍紀ヲ振張シ
四、命令ノ服行ヲ確實ニシ

得ルノハ此ノ禮儀カアルノニ依ルカラテアル若シ不幸ニシテ軍隊ニ
此ノ禮儀カナカツタナレハ

一、其ノ團結ハ弛ンテシマイ

二、其ノ秩序ハ廢レテシマイ
 三、其ノ軍紀ハ衰ヘテシマイ
 四、其ノ命令ハ行ハレナクナツテシマイ
 遂ニハ一日タリトモ生存スルコトカ出來ナクナルモノテ又陛下ノ股肱トナリ護國ノ大任ヲ盡スコトハ得テ望ミ難イコトテアル

第二 勅諭ニ曰ク

一、軍人ハ禮儀ヲ正シクスヘシ
 凡軍人ニハ上元帥ヨリ下一卒ニ至ルマテ其間ニ官職ノ階級アリテ統屬スルノミナラス同列同級トテモ停年ニ新舊アレハ新任ノモノハ舊任ノモノニ服従スヘキモノソ下級ノモノハ上官ノ命ヲ承ルコト實ハ直ニ朕カ命ヲ承ル義ナリト心得ヨ己カ隸屬スル所ニアラストモ上級ノ者ハ勿論停年ノ己ヨリ舊キモノニ對シテハ總テ敬禮ヲ盡スヘシ又上級ノ者ハ下級ノ者ニ向ヒ聊カモ輕侮驕傲ノ振舞アルヘカラス公務ノ爲メニ威嚴ヲ主トスル時ハ格別ナレトモ其外ハ務メテ懇ニ取扱ヒ

慈愛ヲ專一ト心掛ケ上下一致シテ王事ニ勤勞セヨ若軍人タルモノニシテ禮儀ヲ紊リ上ヲ敬ハス下ヲ惠マスシテ一致ノ和諧ヲ失ヒタランニハ雷ニ軍隊ノ蠱毒タルノミカハ國家ノ爲ニモユルシ難キ罪人タルヘシ
 ト軍人タルモノハ宜シク其ノ自己ノ社會ニ於ケル地位ノ高クシテ其ノ責任ノ大ナルコトヲ考ヘ品位ヲ高尚ニシテ一舉一動タリトモ苟モ以テ禮儀ヲ重シテ其ノ模範者タルノ覺悟カナクテハナラヌノテ之レハ又攻撃精神ヲ發揚スル爲メノ一ノ要素テアル

第八章 攻撃精神ト武勇

第一 尙武ハ我カ國建國以來ノ國是テアル故ニ上ハ聖上ヨリ下ハ國民ニ至ルマテ皆此ノ武勇ノ性情ヲ生スルノテアル其レテ國民カ皆尙武ノ氣象ニ富ンテ勇氣ニ富ムテ居ル軍隊ヲ有スル國家ハ眞ニ幸ヒテアル若シ國民及軍隊ニ此ノ氣力カナク勇氣カナカツタナレハ其ノ國軍

ハ忽チ連戦連敗ヲシ其ノ國家ハ早晚獨立ヲ失ヒ國民ハ敵ノ爲メニ奴隸視セラレ、ノ悲境ニ陥ルモノテアル

第二 勅諭ニ曰ク

一、軍人ハ武勇ヲ尙フヘシ

夫武勇ハ我國ニテハ古ヨリイトモ貴ヘル所ナレハ我國ノ臣民タランモノ武勇ナクテハ叶フマシ況シテ軍人ハ戦ニ臨ミ敵ニ當ルノ職ナレハ片時モ武勇ヲ忘レテヨカルヘキ、サハアレ武勇ニハ大勇アリ小勇アリテ同シカラス血氣ニハヤリテ粗暴ノ振舞ナトセンハ武勇トハ謂ヒ難シ軍人タランモノハ常ニ能ク義理ヲ辨ヘ能ク膽力ヲ練リ思慮ヲ殫シテ事ヲ謀ルヘシ小敵タリトモ侮ラス大敵タリトモ恐レス己カ武職ヲ盡サンコソ誠ノ大勇ニコソアレサレハ武勇ヲ尙フモノハ常々人ニ接ルニハ温和ヲ第一トシ諸人ノ愛敬ヲ得ムト心掛ケヨ由ナキ勇ヲ好ミテ猛威ヲ振ヒタラハ果ハ世人モ忌嫌ヒテ豺狼ナトノ如ク思ヒナム心スヘキコトニコソ

ト又或人ノ曰ク

尙武トハ武ヲ尙フノコトテ武術ヲ磨キ膽力ヲ練リ以テ勇敢ノ氣象ヲ涵養ヲシテ精神ヲ堅固ニスルコトテアツテ若シモ我國民タルモノニシテ此ノ尙武ノ思想ニ乏シカツタナレハ士氣ハ從テ振ハナクナリ精神ハ自然ト懦弱ニナリ終ニハ國家ノ興廢存亡ニ關スルモノテアル其レ故ニ日本ノ國民タル者ハ縦ヘ一日タリトモ此ノ尙武ノ心掛ケカ無クテハナラヌノテアル況シテ軍人タルモノハ戦争ニ當ツテハ直チニ戦ヒテ爲ス職分ヲ有スルモノ故暫クモ此ノ心掛ヲ忘レテハナラヌノミナラス益々此ノ氣象ヲ發達ヲサセ又旺盛ニスルコトヲ覺悟ヲシテ居ラネハナラヌ

ト誠ニ武勇ノ緊要ナルコトハ明カテアル其レテ此ノ眞ノ武勇ハ又忠君愛國ノ至情ニ出ツルモノテアツテ之レカ溢フレテ始メテ

一、彈丸雨飛ノ下ニ平然自若トシテ陣頭ニ立ツテ叱咤督勵ヲスルコトカ出來

二、白刃閃クノ時能ク挺身敵彈ニ突入シテ奮進格闘スルコトカ出來ルモノテアル故ニ若シ軍人ニシテ武勇ノ心カナカツタナレハ是レ恰モ烏合ノ集ニ等キモノテ必ス護國ノ大任ヲ盡スコトハ出來ナイノテアル軍人タルモノ、戰場ニ望ムニ當ツテハ元ヨリ生還ヲ期セサルモノテアツテ生キテ歸ルモノハ眞ニ一ツノ僥倖ノミテアル苟クモ生ヲ惜ミ死ヲ畏レテ居ツタナレハ必スヤ武勇ヲ表ハスコトハ出來ナイノミナラス又攻撃精神ヲ發揚スルコトハ得テ望ミ得ヘカラサルコトテアル

第九章 攻撃精神ト信義

第一 凡ソ人カ相集マツテ此ノ社會ヲ成形ヲスル上ハ各其ノ間ニハ信義カナクテハナラナイノテアル其レテ若シモ此ノ信義ナルモノカ無カツタナレハ

一、上下ハ相共ニ詐リ合ヒ

二、同僚ハ相互ニ欺キ合ヒ

社會ノ秩序ハ一日モ維持スルコトハ出來ナクナルモノテアル況シテ忠義ヲ尙ヒ禮儀ヲ重ンスルトコロノ軍隊ニ在リテハ其ノ公ナルト私ナルトヲ問ハス上下ノ交リハ勿論ノコト其ノ同僚間ノ交際ニ至ルマテ赤心ヲ以テシテ一層信ヲ盡シ義ヲ重シ以テ上下同僚互ニ相許シ些細タルトモ隔意ナク同心一體以テ君ノ爲メ國ノ爲メニ盡スコトカ緊要テアル

第二 勅諭ニ曰ク

一、軍人ハ信義ヲ重ンスヘシ
凡ソ信義ヲ守ルコト常ノ道ニハアレトワキテ軍人ハ信義ナクテハ一日モ隊伍ノ中ニ交リテアランコト難カルヘシ信トハ己カ言ヲ踐ミ行ヒ義トハ己カ分ヲ盡スヲ云ナリサレハ信義ヲ盡サント思ハ、始メヨリ其事ノ成シ得ヘキカ得ヘカラサルカヲ審ニ思考スヘシ臆氣ナル事ヲ假初メニ諾ヒテヨシナキ關係ヲ結ヒ後ニ信義ヲ立テントスレハ進

退谷リテ身ノ措キ所ニ苦ムコトアリ悔エトモ其詮ナシ始ニ能々事ノ
 順逆ヲ辨ヘ理非ヲ考ヘ其言ハ所詮踐ムヘカラスト知り其義ハトテモ
 守ルヘカラスト悟リナハ速ニ止ルコソヨケレ古ヨリ或ハ小節ノ信義
 ヲ立テントテ大綱ノ順逆ヲ誤リ或ハ公道ノ理非ニ踏迷ヒテ私情ノ信
 義ヲ守リアタラ英雄豪傑トモカ禍ニ遭ヒ身ヲ滅シ屍ノ上ノ汚名ヲ後
 世ニマテ殘遺セルコト其例尠ナカラヌモノヲ深ク警メテヤハアル
 ヘキ

ト信義ノ重ンスヘキコト又明カテアル近時社會ノ風潮ハ漸次道德ノ
 敗頽ヲ來シテ信義ヲ重スルノ念モ亦極メテ薄キニ近カントシテ居ル
 モノテアル故ニ軍人タル者ハ能ク言行ヲ慎ミ公私ノ區別ヲ稽ヘ理非
 ヲ辨シ以テ世ノ逆風ニ抗スルコトヲ心掛ケネハナラヌノテ之レ又攻
 撃精神ヲシテ鞏固ナラシムルコトヲ得ル一要素テアル

第十章 攻撃精神ト質素

第一 質素ハ我カ國ノ古來ヨリ尙ンテ居ルトコロノ美風テアツテ富國
 強兵ノ根本テアル故ニ質素ハ國民タルモノノ等シク勉ムヘキコトハ
 勿論軍人トシテ特ニ貴重ナル素質テアル其レテ此ノ質素ハ軍人ノ

- 一、品性ヲ高潔ニシ
- 二、志氣ヲ鼓舞シ
- 三、勇氣ヲ増加シ
- 四、困苦缺乏ニ耐ヘシムル

モノテアツテ若シ此ノ質素ヲ守ラス浮華奢侈ニ耽ルトキハ

- 一、心ヲ懦弱ニシ
- 二、心性ヲ卑劣ニシ
- 三、不義不徳ノ行爲ヲシ
- 四、勇猛果敢ノ氣質ヲ失ヒ

以テ其ノ體面ヲ傷ケ武士道ノ骨幹ヲ滅シ素朴ノ美俗ヲ失ヒ大和魂ノ
 基礎ヲ危クシテ奉公ノ任ヲ盡スコトカ出來ナクナルニ至ルモノテア

第二 勅諭ニ曰ク

一、軍人ハ質素ヲ旨トスヘシ
 凡ソ質素ヲ旨トセサレハ文弱ニ流レ輕薄ニ趨リ驕奢華靡ノ風ヲ好ミ
 遂ニ貧汚ニ陥リテ志モ無下賤ニクナリ節操モ武勇モ其甲斐ナク世人
 ニ爪ハシキセラルル迄ニ至リヌヘシ其身生涯ノ不幸ナリト云フモ中
 々愚ナリ此ノ風一タヒ軍人ノ間ニ起リテハ彼ノ傳染病ノ如ク蔓延シ
 士風モ兵氣モ頓ニ衰ヘヌヘキコト明カナ朕リ深ク之ヲ懼レテ曩ニ免
 黜條例ヲ施行シ略此事ヲ誠メ置キツレト猶モ其惡習ノ出ンコトヲ憂
 ヒテ心安カラネハ故ニ又之ヲ訓ユルソカシ汝等軍人ユメ此訓誡ヲ等
 閑ニナ思ヒソ
 ト抑モ華美ヲ好ムハ精神ノ不健全ナルカ爲メテアツテ軍紀風紀ノ廢
 頽モ畢竟之ニ基因スルモノテアリ又國家ノ基礎ヲ危クスルモノテア
 ル故ニ軍人タルモノハ宜シク細心注意ヲシテ

- 一、平素ノ品行ヲ慎ミ
 - 二、金錢ノ費途ヲ詳ニシ
 - 三、私慾ノ爲メニ金錢ヲ濫費スルノ弊風ヲ打破シ
 - 四、儉約ト吞齋トノ區別ヲ明カニシ
 - 五、克己自制ノ精神ヲ涵養シ
 - 六、士氣ヲ旺盛ニシ
- 以テ有事ノ日ニ備フルノ覺悟カ緊要テアツテ之レ等ハ又攻撃精神ヲ
 シテ鞏固ニシ發揚セシメ得ル一要素テアル

第十一章 攻撃精神ト大和魂

第一 大和魂トハ何テアルカ

之レハ即チ我カ日本ノ國民カ古來ヨリ具備シテ居ルトコロノ一種獨
 特ノ精神テ君ノ爲メ國ノ爲メニハ粉骨齏身斃レテ尙ホ屈シナイ處ノ
 氣概ヲ云フノテ我カ國ノ昔ヨリ未タ且テ外國カラ少シノ侮リヲモ受

タコトカナクテ又千古カラ傳ヘテ動カナイト云フモノハ實ニ此ノ大和魂カアルカラテアル其レテ此ノ大和魂ノ發現ハ即チ軍人精神ノ表現テ又攻撃精神ノ現實スヘキ源泉テアル故ニ軍人タルモノハ益々此ノ氣概ヲ振起シテ皇威國光ヲ發揚スルコトヲ常ニ覺悟ヲシテ居ラネハナラナイノテアル

第十二章 攻撃精神ト名譽心

第一 名譽トハ何テアルカ曰ク

名譽トハ自分ノ本分ヲ完全ニ盡シテ其ノ良心ヲ満足サセ尙ホ他人ヨリ尊敬ヲ受ケルコトテアルト
野外要務令綱領ニ曰ク
軍人ハ名譽ヲ重ンセサル可ラス名譽心ハ軍人精神ヲ維持スルモノナリ能ク膽力ヲ助ケ怯懦ヲ掃蕩シ死生ノ地ニ從容タラシム故ニ上將校ヨリ下兵卒ニ至ルマテ常ニ此ノ心ヲ保有シ部下ハ上官ノ爲メ上官ハ

部下ノ爲ニ互ニ相濟シテ以テ全軍ノ名譽ヲ發揚スヘシト即チ

名譽心ト云フモノハ能ク軍人精神ヲ維持シテ膽力ヲ助ケ又怯懦ヲ掃蕩ヲシテ死生ノ地ニ從容自若トサスルコトヲ得ルモノテアル然ラハ此ノ名譽心ハ如何ニシタナレハ養成ヲスルコトカ出來ルカト云フニ之レハ

- 一、軍紀ヲ嚴正ニスルコト
- 二、風紀ヲ維持ヲスルコト
- 三、教育ヲ旺ニスルコト

ニ依テ得ラル、モノテアル然シナカラ徒ニ此ノ名譽心ニ驅ラレテ名譽ノ爲メニ其ノ奴隸トナラヌ様心得テ居ラネハナラヌノテアル

第二 古語ニ曰ク

虎ハ死シテ皮ヲ留メ人ハ死シテ名ヲ留ムト又曰ク

人ハ一代名ハ未代

ト名譽ハ萬世不朽テアル故ニ君ノ爲メ國ノ爲メニ忠義ヲ盡シテ死シタルモノハ即チ名譽ノ死ヲナシタルモノテアル其レ故ニ其ノ名前ハ廣ク天下ニ傳ハツテ後ノ世マテモ永ク朽ルコトハナイノテアル而シテ又軍人トシテ名譽ヲ毀損ヲセラレタ程恥辱ハナイノテアル故ニ斯カル場合ニ在リテハ出來得ル限り立派ナル名譽ヲ現ハシテ其ノ恥辱ヲ恢復ヲスル覺悟カナクテハナラヌノテアル

第三 或人ノ曰ク

最大ノ名譽トハ戰場ニ於テ死ヲ覺悟シテ勇マシク奮闘ヲスルコトテ又最大ノ不名譽トハ戰爭中ニ敵ニ其ノ背ヲ見セルコトテアルト味フヘキ言葉テアル
讀法第七條ニ曰ク
名譽ヲ尙ヒ廉耻ヲ重シ賤劣貪汚ノ所爲アルヘカラサルコトト又

軍隊内務書第二十二章第十六ニ曰ク

外出ノ際ハ特ニ服装ヲ正シクシ姿勢動作ヲ嚴確ニシ活潑ナル歩法ヲ用ヒ凜乎侵スヘカラサル威儀ヲ備フルヲ要ス凡ソ聯隊ニ於ケル軍紀ノ張弛教育ノ精粗ヲ觀察セント欲スルモノハ下士以下ノ營外ニ於ケル舉動ニ注意スルモノナレハ外出先ニ於ケル各自ノ一舉一動ハ聯隊ノ名譽ヲ代表スルモノト心得常ニ軍人ノ名譽ヲ發揚スルコトニ心掛クヘシ

ト之レニ依ツテ見ルモ名譽ノ感念ハ如何ナル時機如何ル場所ニ係ラス常ニ尊重スヘキモノナルコトカ明カテアル

第四

以上述ヘタルコトニ依リ軍人トシテ名譽ヲ尊重ヲセネハナラヌコトハ明ラカアル尙斯ニ重言ヲ願リミス一言スヘキコトハ實ニ名譽心ハ精神的軍人ノ生命テアツテ軍人ハ此ノ心カアツテ生クルモノテ此ノ心カ無カツタナレハ死スルト云フコトテアル而シテ其レハ何故カト云フニ一度ヒ戰場ニ望ミ劍電彈雨ノ間ニ立チ死ノ目前ニ迫リツ

ツアルヲ願ミス泰然自若トシテ戰フコトノ出來得ルノハ固ヨリ忠勇ノ至誠ヨリ出ツルコトテハアルナレトモ亦此ノ名譽ヲ重ニスル心カアルカラテアル即チ卑怯未練ノ動作ヲシテ人ニ笑ハレタリ名ヲ傷ケタリスルコトヲ欲セサルカ爲テアル故ニ此ノ名譽心ノ旺盛ナルコトカ無カツタナレハ必スヤ戰場ニ於テ拔群ノ働ヲ爲スコトハ出來ナイカラテアル即チ又之レニ依ツテ名譽心ナルモノハ攻撃精神ヲ發揚ヲシ之レヲ鞏固ニスルトコロノ源テアルト云フコトカ出來ルノテアル

第十三章 攻撃精神ト軍紀

第一 軍紀トハ何テアルカ曰ク

軍紀トハ軍隊ノ成立ヲ確保シテ其ノ活動ヲ偉大ナラシムル綱紀テアル即チ之レハ有形無形ニ屬スル軍隊ノ法則ヲ云フノテ軍事上ノ規律ヲ嚴肅且確實ニ實行ヲシテ尙ホ上官ノ命令ニ從フコトヲ云フノテアル

第二 凡ソ軍隊ノ動作ハ常ニ協同一致ヲ要シ一令ノ下ニ幾千萬ノ兵員

ヲ動サナケレハナラナイノテアル此ノ場合ニ於テハ其ノ令ノ達スル所ハ

- 一、懸崖テアツテモ辭スルコトハ出來ス
- 二、劍電彈雨ノ中テアツテモ冒サネハナラス
- 三、水火ト雖踏マネハナラス

以上ノ如クニシテ能ク危險ヲ冒シ艱難ヲ忍ヒテ進退亂レス能ク協同一致ヲ保ツコトノ出來ルノハ一ニ此ノ軍紀ノ力テアル其レテ之レハ頂度人ノ身體ニ脈カ通ツテ居ツテ身體各部ノ維持結合ヲ鞏固ニシテ居ルカ如クニ軍隊ニ軍紀カ充實シテ始メテ能ク活動ヲ逞フスルコトカ出來ルノテアル

第三 軍隊カ若シ各人カ能ク軍人精神ヲ備エテ讀法ノ誼ヲ守リ誠心ヲ以テ上官ノ命令ニ服從ヲシ其ノ法則ヲ守リ確實ニ其ノ任務ヲ盡ス者ヨリ成立スルトキハ即チ之レカ軍紀ノ備ハツタ軍隊ト云フコトカ出

來ルノテアル

第四 軍隊内務書綱領ニ曰ク

軍紀ハ軍隊成立ノ大本ナリ故ニ軍隊ハ必ス常ニ軍紀ノ振作ヲ要ス將校ト下士卒トヲ問ハス時ト所トヲ論セス上官ノ命令ニ服從シ法規ヲ恪守シ熱誠以テ軍務ニ努力ス之レヲ軍紀振作ノ實證トス

ト又

野外要務令ノ綱領ニ曰ク

軍ハ軍紀ヲ以テ成セルモノニシテ其消長ハ實ニ勝敗ノ由テ岐ルル所ナリ各機關如何ニ業務ニ敏活ナルモ各人如何ニ技術ニ精巧ナルモ決シテ軍紀以外ニ超軼セシム可ラス常ニ全軍ヲシテ必ス上長ニ服從シ其命ヲ恪守スルヲ以テ第二ノ天性タラシムヘシ之ヲ爲ス如何ン其教育ヲ嚴肅ニシ其秩序ヲ整正ニシ其命令ヲ慎重センノミ

ト又

歩兵操典綱領第三ニ曰ク

軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ戰線幾十里ニ亘リ到ル處地形ト境遇トヲ異ニシ且諸種ノ任務ヲ有スル幾萬ノ軍隊ヲシテ能ク一定ノ方針ニ從ヒ一致ノ運動ニ就カシメ所謂萬人ノ心ヲ以テ一人ノ心ノ如クナラシムルモノ即チ軍紀ナリ故ニ軍紀ハ上ミ將帥ヨリ下モ兵卒ニ至ルマテ一貫スル脈絡ニシテ其弛張ハ實ニ戰鬪ノ勝敗ヲ定メ軍ノ運命ニ關スルモノナリ

ト又

騎兵操典綱領第四ニ曰ク

軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ夫レ騎兵ヲシテ萬難ヲ排シ深ク敵地ニ進入シ忠實以テ任務ニ服セシメ又鞏固ノ團結ヲ維持シ敵火ト敵刃トヲ冒シテ猛烈果敢ニ敵中ニ突入セシメ或ハ混戰亂鬪ノ後速ニ其秩序ヲ恢復シ得シムルモノ即チ軍紀ニシテ其弛張ハ實ニ戰鬪ノ勝敗ヲ決スル者ナリ

ト又

輜重兵操典綱領第二ニ曰ク

輜重兵ノ軍紀ハ持ニ其振肅ヲ圖ラサルヘカラス抑々戰時ニ於ケル輜重ノ大部分ハ勞苦及規律ノ慣習ヲ失ヒタル在郷者ト調教完全ナラサル徵發馬トヨリ成ルヲ以テ其指揮統御共ニ頗ル困難ナルヲ免レス之ヲ律シテ能ク其行動ヲ正確ナラシメ且困苦缺乏ニ處シテ益々奮勵努力セシムル所以ノモノ一ニ軍紀ノ張弛如何ニ存シ其張弛ハ直ニ輜重機能ノ消長ヲ致シ延テ軍ノ運命ニ關スルモノトス

ト軍紀ノ軍隊ニ必要ナル又右ニ依テ明カラテアル然ルニ目下社會ノ風潮ハ軍隊ノ要求ヲスル此ノ精神即チ攻撃精神ヲ缺如セシメシツツアル時ニ當リ此ノ精神ノ養成ニ努力スルハ吾人軍人タルモノ、急務テアツテ又一朝一夕ノ能クスル所テハナイノテアル然ラハ如何ニシタナレハ良イカト云フニ其ノ方法ハ先ツ自ラ

- 一、諸法則ヲ遵奉ヲシ
- 二、禮儀ヲ正シク
- 三、服從ノ道ヲ守リ

四、躬行率先以テ活模範ヲ示シ

以テ攻撃精神ヲ養成ニ努力セハ良イノテアツテ又此ノ軍紀ノ養成ハ攻撃精神ヲ養成ヲシ之レヲ鞏固ニスル爲メノ一要素テアル

第十四章 攻撃精神ト風紀

第一 風紀トハ何テアルカ曰ク

之レ軍人ノ態度ト並ニ軍隊ノ面目トヲ保タシムル所ノ法則テ則チ世ノ所謂風儀ノコトデアツテ軍人タルモノ、容儀品行ノ正シキコトヲ云フノテアル即チ換言スレハ風紀カ正シイトキニハ軍人ノ容儀品行ハ何レモ嚴正テアツテ上下ノ分カ能ク整ヒ軍隊ノ内部ノ秩序カ整然トシテ居ルコトヲ云フノテアル

第二 風紀ハ軍紀ト相俟ツモノテアル其レ故ニ風紀ノ正シキ軍隊ハ必ス軍紀モ亦嚴正テアツテ自然ト侵スコトノ出來ナイ威嚴ヲ備ヘテ居ルモノテアルソレ故斯ノ如キ軍隊テ初メテ彼ノ品格ノ有ル人カ他人

ノ尊敬ヲ受ケルカ如ク内外ノ尊敬ト信頼トヲ受ケルコトカ出來ルノ
テアル故ニ之ニ依ツテ見レハ風紀モ又軍紀ト同シク攻撃精神ヲ養成
ヲシ之レヲ鞏固ナラシムル爲メノ一ノ要素テアコトハ免レナイノテ
アル

第十五章 攻撃精神ト協同一致

第一 協同一致トハ何テアルカ曰ク

之レ互ニ心ヲ協セテ働キヲ共ニスルコトテ軍隊ニ於テ最モ尙フ所ノ
モノテアル抑モ

- 一、寡ハ衆ニ敵セス
 - 二、小ハ大ニ抗セス
- トハ自然ノ形勢ナレトモ戰鬪ニ於テ能ク
- 一、寡ヲ以テ衆ヲ破リ
 - 二、小ヲ以テ大ニ抗シ

タル例尠カラサルハ吾人ノ一般ニ認ムル所テアツテ最近戰役ニ於ケ
ル我國ノ連戰連捷ハ又之レニ基因スルト云フコトカ出來ルノテアル
彼ノ

- 一、一筋ノ毛髮ハ甚タ弱キモノナレトモ千萬筋モ之レヲ合シタナレ
バ意外ニ重キ物ヲモ曳クコトカ出來
- 二、一本ノ矢ハ之レヲ折ルコトハ容易テアルナレトモ十數本ヲ合シ
テ一束トシタナレハ之レヲ折ルコトハ不可能テ
- 三、綱引ニ於テ氣合ノ克ノ一致ヲセルモノハ一致ヲセサルモノニ勝
ツコトカ出來

ルノヲ見テモ協同一致ナルモノ、必要ナル所以ハ明カテアル

第二 野外要務令綱領ニ曰ク

戰時ノ軍務ハ多端ナリ是レ幾多ノ機關ヲ設ケ業務ヲ分課スル所次ナ
リ故ニ其分課ヲ擔任スル者即チ各機關ノ將校ハ專ラ心力ヲ職責ノ在
ル所ニ竭シ他ノ補助ニ倚賴セス確然自立シテ其任務ヲ全クスヘシ大

小ノ機關各々此心ヲ以テ心トセハ全軍ノ協同一致始テ得テ期スヘキナリ

ト又

步兵操典綱領第一ニ曰ク

戦闘ハ諸兵種協同一致シテ各々其固有ノ戦闘能力ヲ發揮スルニ依リテ好果ヲ得ルモノナリ而シテ歩兵ハ戦闘ノ主兵トシテ戰場ニ於テ常ニ主要ノ任務ヲ負擔シ戦闘ニ最終ノ決ヲ與フルモノナリ故ニ他兵種ノ協同動作ハ歩兵ヲシテ其任務ヲ達セシムルヲ主眼トシテ行ハルルヲ通則トス

ト又

同第六ニ曰ク

協同一致ハ戦闘ノ目的ヲ達スル爲最モ重要ナルモノニシテ命令ヲ以テスルノ外各人ノ獨斷專行ニ待ツモノトス蓋シ兵種ヲ論セス指揮官タルト兵卒タルトヲ問ハス各々自己ノ任務ノ遂行ニ努力スルハ即チ

協同一致ノ趣旨ニ合スルモノニシテ戦況ノ變化ニ應スル臨機ノ手段ハ一ニ各人ノ獨斷ニ待タサルヘカラス而シテ獨斷專行ハ必ス軍人精神ヲ基礎トスル公義心ニ出テ時トシテハ自ラ任シテ友軍ノ犠牲トナルノ覺悟アルヲ要ス

ト又

騎兵操典綱領第一ニ曰ク

又會戰ニ方リテハ他兵種ト協同動作シ其終局ニ際シテハ猛烈ニ敵ヲ追撃シテ戦闘ノ效果ヲ偉大ナラシメ或ハ果敢ナル逆襲ヲ斷行シテ友軍ノ戰勢ヲ挽回セサルヘカラス

ト又

野砲兵操典綱領第五ニ曰ク

協同一致ハ戦闘ノ目的ヲ達スル爲最モ重要ナルモノニシテ命令ヲ以テスルノ外各人ノ獨斷專行ニ待ツモノトス

獨斷專行ハ其精神ニ於テ常ニ服従ト相離レス且上級指揮官ノ意圖ノ

範圍内ニ於テスヘキモノトス然レトモ戰況ハ變化窮リナキカ故ニ不意ノ事變ニ遭遇シテ或ハ其範圍外ニ出ツルヲ要スルコトナキヲ保セス此場合ニ於テモ尙戰鬪一般ノ目的ヲ考慮シ上級指揮官ノ意圖ヲ付度シテ之ニ投合スルコトヲ勉メ決シテ擅恣ニ陥ルヘカラスト又

重砲兵操典綱領第二ニ曰ク

重砲兵ハ他兵種ト協同シテ戰鬪ヲ實行シ殊ニ野戰砲兵ノ擊破シ能ハハサル目標竝步兵ノ攻撃ヲ阻碍スヘキ術工物ヲ破壊シ敵ヲ壓倒震駭シ以テ戰局ノ進捗ヲ容易ナラシメ云々

ト又

同第五ニ曰ク

協同一致ハ戰鬪ノ目的ヲ達スル爲最モ重要ナルモノニシテ命令ノミヲ以テ終始之ヲ律スル能ハス各人ノ獨斷專行ニ待ツモノ少シトセス故ニ指揮官タルト兵卒タルトヲ問ハス常ニ上級指揮官ノ意圖ヲ付度

シ擅恣ニ陥ラス各自任務ノ遂行ニ努力シ以テ協同一致ノ實ヲ擧クルヲ要ス

ト又

輜重兵操典綱領第五ニ曰ク

協同一致ハ勤務ノ遂行上缺クヘカラサル要件ナリ而シテ各自其受ケタル任務ニ努力スルハ協同一致ノ趣旨ニ合スルモノナリト雖狀況ノ變化ハ往々命令ノ到達ヲ期シ難ク時ニ臨機ノ處置ニ出テ獨斷專行セサルヲ得サルコトアリ此場合ニ於テモ能ク上級指揮官ノ意圖ニ投合センコトヲ勉メ決シテ擅恣ニ陥ルヘカラスト又

軍隊内務書綱領ニ曰ク

又諄諄之ヲ訓育シ明治十五年軍人ニ賜リタル

勅諭ノ御趣意ヲ銘肝セシメ我國體ノ萬國ニ冠絶セル所以ト聖朝御歴代ノ高德トヲ講話シ兼テ古今忠勇義烈ノ事蹟ヲ述ヘ又諸規則典範類

ヲ説明シテ近世戰鬪ノ性質ヲ知ラシメ以テ戰爭ノ勝利ハ軍人精神充溢シ軍紀克ク行ハレ協同一致ノ觀念熾ニシテ勇往邁進スル軍隊ニ歸スルモノナルコトヲ了解セシムヘシ

ト之ニ依ツテ見レハ協同一致ハ實ニ攻撃精神發現ノ源泉テ又軍紀ノ精華テアル今斯ニ協同一致ヲ缺クノ軍隊アリトヤンカ之レ等ハ縱ヒ幾多ノ數アリト雖唯幾千萬ノ個人ノ集合ニシテ恰モ鳥ノ群ニ等シク戰爭ノ用ニ供スル能ハス毫モ軍隊トシテノ價值ハナイノテアル故ニ軍人タルモノハ平素其ノ起居ノ間ニ於テヨリ進ンテ此ノ精神ヲ養成スルコトヲ心掛ネハナラヌノテアル

第十六章 攻撃精神ト忍耐

第一 忍耐トハ何テアルカ曰ク

之レ困苦ヲ忍ヒテ屈セス缺乏ニ耐ヘテ撓マス克ク心力ヲ盡スヲ云フノテアル

第二 凡ソ事ヲ爲シ業ヲ遂クルモノハ忍耐ノ力ニ由ラナイノハナイノデアアル其レ故忍耐力ノ強キ者ハ大事ヲ爲シ弱キ者ハ小事ヲ爲シ全ク無イモノハ何事モ成就スルコトハ出來ナイモノテアル故ニ忍耐ハ何人タリトモ必要ナル素質テアル特ニ軍人タルモノハ戰爭ニ當テハ常ニ

- 一、寒暑雨雪ヲ冒シ
 - 二、艱苦ヲ忍ヒ
 - 三、衣食飲料ノ不足不給ニ耐ヘ
 - 四、連日連夜山野ヲ跋涉ヲシ
 - 五、露營ヲ爲シ
 - 七、劍電彈雨ノ危険ヲ冒シ
 - 八、悲惨ノ狀況ヲ目撃ヲシ
- テ戰鬪ニ従事ラスルノヲ任務トスルモノ故殊ニ必要ナル所以テアル
- 第三 軍隊内務書綱領ノ二ニ曰ク
- 兵卒ハ一意専心上官ノ教訓ヲ迎ヘ

勅諭ノ御趣意ヲ遵奉シ命令規則ヲ嚴守シ諸勤務演習ニ勉勵シ兵器ヲ尊重シ馬ヲ愛護シ官物取扱ヲ丁寧ニシ新參者ヲ慈ミ古參者ヲ敬ヒ蔭日向ナク内務ノ規定ヲ守リ上官ニ仕フルコト猶ホ父母ニ事フルカ如クシ衛生ヲ重シ筋骨ヲ鍛ヒ困苦缺乏ニ耐ヘ百折不撓ノ心ヲ養ヒ以テ軍人ノ面目ヲ完クスルコトヲ瞬時モ懈ルヘカラス
ト又

野外要務令綱領ニ曰ク

艱苦缺乏ニ耐ヘ克ツハ軍人必須ノ性質ナリ宜シク演習ノ日ニ於テ之ヲ教誨養成スヘシ一タヒ經驗ニ上ルノ後ハ大ニ自信力ヲ強クシ又進取力ヲ増スモノナリ
ト又

歩兵操典綱領第四ニ曰ク

歩兵戰闘ハ頗ル軋強ノ性質ヲ有スル者ナルカ故ニ歩兵ハ剛膽ニシテ耐忍ニ富ミ沈著ニシテ勇敢ナラサルヘカラス勝敗將サニ岐レントシ

戰闘慘酷ヲ極ムルトキニ於テ持ニ然リ此時ニ方リテハ敵モ亦既ニ我ト同一若ハ以上ノ苦境ニ在ルヘキヲ以テ能ク毅然トシテ之レニ堪ヘ奮然トシテ邁カハ遂ニ敵ヲシテ抵抗ヲ斷念セシムルニ至ルモノトスト又

歩兵操典第一部第百十八ニ曰ク

凡ソ幹部ハ困難ニ遭遇スル毎ニ益々勇氣ヲ倍加シ常部下ノ志氣ヲ鼓舞激勵セサルヘカラス特ニ突撃ニ際シテハ滿身ノ氣力ヲ奮ヒ率先敵陣ニ突入シ奮戰勇闘以テ勝利ヲ得ルコトニ全力ヲ盡スヘシ
ト又

騎兵操典綱領第三ニ曰ク

騎兵ハ剛膽且慧敏ニシテ忍耐ニ富ミ體力强健ニシテ武技殊ニ馬術ニ熱練シ襲撃ノ令一タヒ下ルトキハ敵兵ノ多寡ヲ顧ミス地形ノ難易ヲ問ハス踴躍奮進シテ敵ヲ壓倒スルノ勇氣アルヲ要ス
ト又

輜重兵操典綱領第三ニ曰ク

軍人精神鞏固ニシテ堅忍持久ノ氣力ニ富ミ志氣旺盛體力亦強健ニシテ至大ノ行軍力ヲ有スルハ輜重兵必須ノ要件ナリ蓋シ輜重兵ハ季節天候及地形ノ如何ヲ論セス晝夜行動ヲ繼續シ輸送ニ從事スルヲ以テ勤務ノ常態トスルノミナラス往々砲煙彈雨ノ間ニ出入スルコトアルヲ以テ以上ノ要件ヲ具有スルニ非サレハ其任務ノ達成得テ期スヘカラス

ト忍耐ノ要求其レ斯ノ如ク大ニシテ且重テアル而シテ又之レニ依ツテ見レハ忍耐力ノ無クシテ攻撃精神ノ存在ヲスル理由カナク從テ忍耐力ノ備ハラスシテ攻撃精神ノ發揚ヲ望マントシテモ得ヘカラサルコトハ明カテアル故ニ吾人軍人タル者ハ宜シク平素ヨリ之レカ養成ニ努力スルコトヲ心掛ケネハナラヌノテアル

第十七章 攻撃精神ト服從

第一 服從トハ下級ノ者カ上級ノ者ニ對シテ其ノ命ニ服シ令ニ從フコ

トテアツテ即チ能ク目上ノ人ノ言ヒ付ケ通りニ從ツテ自己ノ盡スヘキ任務ヲ速ニ行フコトヲ云フノテアル

第二 凡ソ命ニ服シ令ニ從フト云フコトハ軍ヲ始ムルノ大本テアツテ下級ノ者ハ上級ノ者ニ服シ上級ノ者ハ下級ノ者ヲ慈シミ上下心ヲ同シクシテ君ノ爲メ國ノ爲メニ盡サネハナラヌノテアル抑モ軍隊ニハ上ハ元帥カラ下ハ一兵卒ニ至ル迄其ノ間ニハ官職ノ高下カアルノミテナク縱ヒ同列同級テアルトモ亦其ノ停年ニ新舊カアルモノテアツテ此ノ間ニ在ツテ一絲不紊整然トシテ上下新古ノ區別ヲ立テ秩序ヲ保チ得ルノ實ニ此ノ服從ノ道カ行ハル、カラデアアル其レテ又此ノ服從ハ之レヲ崇高ナル禮儀ノ心ニ發スルモノテ禮儀ノナイ服從ハ外容ノミテ眞ノ服從テハ無ク此ノ如キ服從ハ何等ノ用ヲ爲サス一度蹉跌ヲシタナレハ忽チ瓦解ヲスルニ至ルノテアル故ニ軍隊ニ於ケル服從ハ絶對的テナケレハナラヌ

第三 軍隊内務書綱領一二曰ク

服従ハ軍紀ヲ維持スルノ要道タリ上官ト部下トノ間ニ於テ絶對ニ之ヲ勵行シ慣習遂ニ其性ヲ成スニ至ラシムルヲ要ス其他軍人一般ニ其階級及新古ノ順序ニ從ヒ服従ノ道ヲ守リ恭謙柔順以テ全軍ノ秩序ヲシテ整タラシメサルヘカラス蓋シ服従ハ下級者ノ忠實ナル義務心ト崇高ナル德義心トニ依リ軍紀ノ必要ヲ覺知シタル觀念ニ基キ上官ノ正當ナル令周到ナル監督及其感化力ト相待テ能ク其目的ヲ達シ衷心ヨリ出テテ形體ニ現レ遂ニ彈丸雨飛ノ間ニ於テ甘シテ身命ヲ上官ニ致シ一意其指揮ニ從フニ至ルモノトス外形ノミノ服従ハ此際何等ノ價値ナキコトニ留意シ衷心誠實ニ之ヲ行ハシムルコトニ付テハ復與モ懈ルコトアルヘカラス而テ其最良ナル方法ハ上官先ツ自ラ諸法則ヲ遵奉シ禮儀ヲ正クシ服従ノ道ヲ守リ以テ模範ヲ垂ルルニ在ルコトヲ忘ルヘカラス

ト又
軍隊内務書第二章服従ニ曰ク

第一 凡ソ部下タル者其上官ニ服従スルハ如何ナル場合ヲ問ハス必
嚴重ナルベシ

部下ニアラサル受令者ノ命令者ニ對スル場合モ亦同シ

第二 前條ノ關係ヲ有セサル上級者ト下級者トノ間ニ於テハ各々其
本分職務ニ妨ケナキ限り常ニ服従ノ道ヲ守ルベシ

第三 同級者ニ在リテハ各々其停年ノ新古ニ應シ服従ノ道ヲ守ルコ
ト恰モ階級ノ上官ニ於ケルカ如クナルヘシ

第四 凡ソ命令ハ謹テ之ヲ守リ直ニ之ヲ行フヘシ決シテ其當不當ヲ
論シ其原因理由等ヲ尋スルコトヲ許サス然レトモ其命令不明瞭ナ
ルトキ徐ニ之ヲ尋ヌルハ妨ケナシ

新ニ受ケル處ノ命令ト以前ノ命令ト齟齬スルトキハ其趣ヲ申述ヘ
然ル後之ヲ行フベシ

第五 犯行アリテ處分ヲ受クルトキハ假令不當ト思フトモ決シテ辯
解スルコトナク必ス之ニ服従スヘシ又上級者ノ取扱假令不條理ト

考フルモ決シテ之ヲ争ヒ論スルコトヲ許サス但シ徐ニ順序ヲ經テ之ヲ訴フルモハ妨ケナシ若シ勤務中ナレハ勤務終リテ後之ヲ訴フルモノトス

第六 服従ハ身分、階級ノ如何又ハ上下懸隔ノ大小ニ依テ嚴否ノ度ヲ異ニスルモノニアラス總テ本章ノ規定ニ從ヒ之ヲ守ルヘシト又

野外要務令綱領ニ曰ク

常ニ全軍ヲシテ必ス上長ニ服従シ其命ヲ恪守スルヲ以テ第二ノ天性タラシムヘシ

ト又曰ク

凡ソ命令ニハ服従ヲ要ス然レトモ其實施ニハ獨斷ヲ要スル場合尠カラス此服従ト獨斷トハ正ニ相反スルモノ、如シト雖其實ハ則否ラス蓋シ兵事ノ變化ハ測リ難ク命令ニ指示スル敵情全ク逸シ若クハ其一部外ノ吻合セサルコトアリ此場合ニ在テ其措置ヲ發令者ニ咨稟スルトキハ時機ヲ失スルノ憂アリ故ニ受令者自ラ其命令ノ目的ヲ達シ得

ヘキ方法ヲ撰ヒ獨斷專決以テ機會ニ投セサル可ラス此獨斷專決ハ則チ時機ノ處置ニシテ命令ノ不足ヲ補フモノナリ服従セサルニ非サルナリ抑々服従ハ常經ナリ獨斷ハ權變ナリ權變ハ非常ノ時ニ限ル必ス濫用ス可ラス

ト又

歩兵操典綱領第六中ニ曰ク

抑々獨斷專行ハ其精神ニ於テ服従ト相離ルルコトヲ許サス常ニ上級

指揮官ノ意圖ヲ付度シ必ス其範圍ニ於テスヘキモノトス

ト服従ノ緊要ナル其レ斯ノ如キテアル故ニ吾人軍人タルモノハ宜シク率先服従ノ道ヲ守リ軍隊ヲシテ必ス秩序ヲ整正ニシ上長ノ命令ヲ慎重ヲスルノ習慣ヲ得ルニ至ラシムル如ク努力セネハナラヌノテ斯クシテ始メテ服従カ行ハル、ト云フコトカ出來ルノテ又軍紀カ嚴肅ナリト稱スルコトカ出來從ツテ又攻撃精神ヲシテ鞏固ニスルコトカ、出來得ルノテアル

第十八章 攻撃精神ト意志ノ堅確

六六

第一 堅確ナル意志ハ軍人タルモノ、最モ貴重トスル所ノモノテアル
凡ソ何カ事業ヲ成サント欲シタナレハ必スヤ先ツ之レカ計畫ヲ立テ
然ル後ニ之レカ實行ニ著手ヲスルノテアル而シテ此ノ實行ト云フコ
トハ又決シテ容易ナルモノテハナク縦ヒ如何ナル困難辛苦ニ遭遇ス
ルトモ必ス失望ヤ落膽ヲスルコトナク不撓不屈ノ決心ヲ以テ遂行ヲ
セネハナラヌノテ斯クシテ初メテ成功ヲスルコトヲ得ルノテアル其
レテ若シ如何ニ良好ナル計畫タリトモ如何ニ善良ナル考案タリトモ
之レカ實行ニ當リ躊躇ヲシタナレハ何等ノ効力無キノミナラス返リ
テ害ヲ生スルニ至ルノテアル
野外要務令綱領ニ曰ク
人或ハ自ラ任セス往々罪ヲ形式ニ諉ス然レトモ形式ハ運用ヲ待ツモ
ノニシテ運用ハ人ニ存ス人々宜シク身ヲ以テ責ニ任シ機宜ニ應シ之

ヲ活用スヘキノミ

ト
右ニ述ヘタル決心ヲ以テ事業ニ著手ヲシタナレハ縦令其ノ計畫カ不
備テアツテモ其ノ考案カ不完全テアツテモ此ノ勇氣ハ能ク其ノ不備
ヤ不完全ヲ補フモノテアル其レテ此ノ決心及勇氣カ即チ意志ノ堅確
ナルノニ依ツテ得ラル、モノテアル然ルニ世間ニ於テハ動モスレハ
多クノ良案妙策ヲ提ケテ遂ニ何等ノ爲ス所ナク終ルモノカ少クナイ
ノテアル之レ即チ遂行ヲセサレハ止マサルトコロノ決心及勇氣カ無
イノニ依ルノテ又意志カ堅確テナイカラテアル
野外要務綱領ニ曰ク

指揮官ノ最モ戒ムヘキノニアリ曰ク爲サ、ルナリ遲疑スルナリ苟
モ之ヲ爲シ之ヲ斷行スレハ縦ヒ其方法ヲ誤ルモ尙爲サ、ルト遲疑ス
ルトニ愈サル蓋シ此兩者ノ軍隊ヲ危殆ニ陥ル、コト實ニ方法ヲ誤ル
ヨリ甚シキモノアレハナリ

ト又

步兵操典第二部第四ニ曰ク

指揮官ノ決心ハ須ク堅確ナラサルヘカラス決心動搖スレハ部下從ツテ遲疑ス

ト實ニ味フヘキ言葉テアル若シ指揮官ニシテ心ニ深ク成功ヲ信スルコトモナク又斷乎トシテ之レヲ遂行スルノ勇氣カナイ様ニナツタナレハ部下ハ從テ不安畏怖ノ念ヲ起シ其ノ志氣ヲ沮喪ヲシテ其ノ攻撃精神ノ發現ヲ缺如スルニ至ルモノテアル

第二 步兵操典綱領第四ニ曰ク

歩兵ハ剛膽ニシテ耐忍ニ富ミ沈着ニシテ勇敢ナラサルヘカラス勝敗將サニ岐レントシ戦闘慘酷ヲ極ムルトキニ於テ特ニ然リ此時ニ方リテハ敵モ亦既ニ我ト同一若ハ以上ノ苦境ニ在ルヘキヲ以テ能ク毅然トシテ之ニ堪ヘ奮然トシテ邁カハ遂ニ敵ヲシテ抵抗ヲ斷念セシムルニ至ルモノトス

ト是レ實ニ堅確ナル意志ヨリ發スル耐忍ト勇氣ト決心テアツテ彼ノ薄志弱行ノ徒ノ必スヤ能ク耐ユルトコロテハナイノテアル故ニ軍人タル者ハ如何ナル艱難ニ遭遇スルトモ如何ナル缺乏ニ出會スルトモ先ツ其ノ意志ヲ堅確ニシテ自ラ勇氣ヲ奮興ヲシ不撓不屈以テ之レヲ遂行ヲセサレハ止マサルトコロノ意志ヲ鍛鍊ヲスルコトヲ心掛ケネハナラヌノテアル

第十九章 攻撃精神ト率先躬行

第一 卒先躬行トハ何テアルカ曰ク

身ヲ以テ實踐ヲシ人ニ先ンシテ模範ヲ示スコトテアル
或人ノ曰ク

一ツノ模範ハ百ノ説教ニ勝ルモノナリ
ト又

軍隊内務書綱領ニ曰ク

上官ハ隊中ニ在ルト否トヲ論セス其言行總テ部下ノ儀表タラサルヘカラス故ニ上官ハ常ニ氣品ヲ高尚ニシ行狀ヲ端正ニシ其態度服裝ヲ正クシ篤親ノ中自ラ威容ヲ存シ以テ部下ヲシテ己レヲ敬愛セシムルコト猶ホ幼兒ノ其嚴父ニ於ケルカ如クナラシムルヲ要ス就中下士ハ常ニ兵卒ト起居ヲ共ニスルモノナルカ故ニ其言動ノ兵卒ニ感染スルコト最モ甚シキ所以ト百ノ訓誨ハ一ノ模範ニ如カサルコトヲ考ヘ克己堅忍深ク其躬行ヲ慎ミ兵卒ニ接スルニハ常ニ懇切公平ヲ旨トシ而モ其身分ノ尊嚴ヲ保チ以テ兵卒ヲシテ己レニ信賴セシムルコト猶ホ幼兒ノ其慈母ニ於ケルカ如クナラシムルヲ要スト又

步兵操典綱領第五ニ曰ク

軍隊ノ志氣ハ旺盛ナラサルヘカラス狀況困難ナルトキニ於テ特ニ然リ抑々指揮官ハ軍隊志氣ノ中心ナリ故ニ常ニ士卒ト苦樂ヲ俱ニシ卒先躬行部下ノ儀表トシテ其尊信ヲ受ケ戰況慘烈ノ極所ニ立チ勇猛且

沈著ニシテ部下ヲシテ望ミテ山嶽ヨリモ重キヲ感セシムルノ德量氣慨無カルヘカラス

ト又

野外要務令綱領ニ曰ク

將校及下士ノ各部下ニ於ケルヤ雷ニ其指揮官タルノミナラス又其ノ教官タルモノニシテ一舉一動常ニ其模範ト爲ル慎マサル可ラス此模範ノ全軍ニ影響スルヤ殊ニ劍電彈雨危急切迫勝敗將ニ岐レントスル瞬間ヲ以テ最トス是時ニ當リ其瞻視ヲ正シクシ其容貌ヲ儼ニシ部下ノ屬望ヲ繫持センコト亦豫メ修習セサル可ラス

ト率先躬行ノ軍人ニ必要ナル以上ニ依ツテ明カテアル

- 一、其ノ忠節ニ於テ然リ
- 二、其ノ禮儀ニ於テ然リ
- 三、其ノ武勇ニ於テ然リ
- 四、其ノ信義ニ於テ然リ

- 五、其ノ質素ニ於テ然リ
 - 六、其ノ上官トシテ然リ
 - 七、其ノ同僚トシテ然リ
 - 八、其ノ指揮官トシテ然リ
 - 九、其ノ教官トシテ然リ
 - 十、其ノ學科ニ於テ然リ
 - 十一、其ノ術科ニ於テ然リ
 - 十二、其ノ諸勤務ニ於テ然リ
- 殊ニ戰時ニ於テ然リテアル即チ其ノ之レヲ要スルノハ何レノ時ニ於テモ然リテアル然シナカラ
- 言フハ易クシテ行フハ難シ
- ト人トシテ常ニ模範ヲ説キ率先躬行ヲ口ニシテ而カモ其ノ言動ノ一
- 致セサルモノハ少クナイノテアル

第二 步兵操典第一部第十七ニ曰ク

教官ハ特ニ其態度服裝ヲ正シクスヘシ是教官ノ率先躬行ハ兵卒ニ多大ノ感動ト影響トヲ與フルモノナレハナリ

ト又

同第百十八ニ曰ク

凡ソ幹部ハ困難ニ遭遇スル毎ニ益々勇氣ヲ倍加シ常ニ部下ノ志氣ヲ鼓舞激勵セサルヘカラス特ニ突撃ニ際シテハ滿身ノ氣力ヲ奮ヒ率先敵陣ニ突入シ奮戰勇闘以テ勝利ヲ得ルコトニ全力ヲ盡スヘシ

ト又

同第百六十二ニ曰ク

戰鬥ノ進歩ニ從ヒ損傷ヲ補充シ尙散兵ヲ増加シテ火力ヲ増シ漸次敵ニ近接シ適時銃劍ヲ著ケ終ニ敵ニ肉薄シ得ルニ至レハ中隊長ハ率先先頭ニ立チ第百二ニ準シ中隊ノ全力ヲ擧ケテ猛烈果敢ニ敵陣ニ突入スヘシ中隊ノ精神的團結ノ鞏固ハ實ニ此瞬間ニ發現スルモノナリ

ト又

同第百八十八ニ曰ク

敵兵動搖ノ色アルトキハ大隊長ハ直ニ之ニ乗シ大隊ノ全力ヲ揮ヒ率先シテ突撃ヲ實施スヘシ

ト又

騎兵操典綱領第三ニ曰ク

殊ニ指揮官ハ明察ノ眼力ヲ備ヘ沈著ニシテ果斷率先難局ニ當ルノ氣概ヲ有シ加フルニ簡明ナル手段ニ依リテ部下ヲ統率スルノ才略ナカルヘカラス

ト又

同第一部第百二十二ニ曰ク

彼我漸次近接シ射撃ノ効果十分現ハレタルトキハ適時起劍ヲ爲シ中隊長ハ卒先頭ニ立チ第六十六ニ準シ中隊ノ全力ヲ擧ケテ敵ニ向ヒ突進スヘシ

ト又

同第百八十六ニ曰ク

小隊長以下ノ幹部ハ各々自己ノ位置ヲ固守シテ中隊ノ團結ヲ確保シ絶エス中隊長ニ注意シ中隊ヲシテ中隊長ノ行進方向歩度及速度ニ準シ適當ノ隊形ヲ保チ之ニ跟随シ得シメサルヘカラス

ト又

同第百八十七ニ曰ク

凡ソ幹部ハ困難ニ遭遇スル毎ニ益々勇氣ヲ倍加シ常ニ部下ノ志氣ヲ振興セシムル如ク注意セサルヘカラス特ニ襲撃ニ方リテハ猛進シテ敵ヲ突破セスンハ已マサルノ決意ヲ以テ滿身ノ勇ヲ奮ヒ率先敵中ニ突入シ勇敢ナル模範ト勵聲トニ依リ部下ヲ鼓舞スルヲ要ス

ト又

同第百八十八ニ曰ク

襲撃ニ方リ兵卒ハ各々其位置ヲ確保シ襲撃ノ令一タヒ下レハ踴躍敵中ニ突入スヘシ

若接戦トナリタルトキハ各兵ハ其馬術ト白兵ノ使用熟練トニ恃ミ各個ニ奮闘セサルヘカラス凡ソ疑懼退走ハ敗滅ニ陥リ猛烈勇敢ナル動作ハ常ニ勝利ヲ得ヘキコトヲ銘肝シ縦ヒ戦況不利ナル場合ト雖飽クマテ奮闘ヲ繼續シ斃レテ後已ムノ覺悟アルヲ要ス

ト又

同第二百三十五ニ曰ク

旅團長ハ一般ノ狀況ヲ觀察シ且展開ノ好時機ヲ判定シ得ヘキ位置ニ在ルヲ要ス又最後ノ時機ニ於テハ通常主力ヲ提ケ敵中ニ突入スルモノトス

同第二部第五十三ニ曰ク

突撃ハ射撃ヲ以テ敵ヲ制壓シタル後指揮官ノ命令ニ依リ近距離ヨリ實施スヘキモノトス然レトモ前線ニ在ル各指揮官ハ好機ニ投シ自ラ之ヲ決行スルニ躊躇スヘカラス

ト又

同第五十四ニ曰ク

攻撃功ヲ奏セハ敵ヲ殲滅センカ爲追撃射撃ヲ爲シ得ル地點マテ前進シ追撃射撃ニ加ハラサル部隊ハ乘馬シ又乘馬豫備隊尙存スルトキハ機ヲ失セス獨斷追撃ニ移ルヲ要ス

ト又

同第六十四ニ曰ク

戦闘經過中途ニ攻勢ニ轉スヘキ機會ナク敵兵我カ陣地ニ突入セハ其守兵ハ最後マテ奮闘スヘシ若密集部隊存スルトキハ其混亂ニ乘シ果敢ナル攻撃ヲ行ヒ陣地ヨリ敵ヲ撃退スルコトヲ圖ルヘシ

ト又

同第七十二ニ曰ク

會戦後ニ於ケル追撃ハ實ニ騎兵ノ特性ヲ發揮シ偉大ノ効果ヲ收ムヘキ好機ナリ故ニ騎兵指揮官ハ軍隊ノ現況ニ眩惑スルコトナク猛烈果敢ナル追撃ヲ斷行シ以テ戦勝ノ效果ヲ完ウセサルヘカラス最極度マ

テ敢行スル追撃ハ我カ軍ヲシテ再戦ノ勞ヲ省カシムルコトヲ得ルモノナリ

ト又

同第七十三ニ曰ク

地形上全兵力ヲ統一シテ追撃ヲ行フヲ得サルトキハ騎兵指揮官ハ一般ノ目的ヲ示シ各部隊ヲシテ各個ニ追撃ヲ行ハシムヘシ此場合ニ於テ各部隊長ハ自ラ責ニ任シ獨斷ヲ以テ必要ナル部署ヲ爲シ敵ヲ窮追スヘシ

ト又

野戦砲兵操典第一部第二百八十八ニ曰ク

戦闘間死傷ヲ生シ補充ヲ待ツノ違ナキニ方リ尙射撃ノ澁滞ヲ防カンカ爲砲手缺クルトキハ砲車長ハ他ノ砲手ヲシテ之ヲ兼ネシムルカ或ハ自ラ之ヲ補ヒ砲車長缺クルトキハ其小隊長一砲手ヲ指手シテ之ニ代ラシメ小隊長缺クルトキハ其小隊内古參ノ砲車長之ニ代ハリ一時

之ヲ補缺スヘキモノトス斯ノ如クシテ中隊ハ縦ヒ最後ノ一人ニ至ルモ尙其射撃ヲ繼續スヘシ

ト又

同第二部第七十八ニ曰ク

凡ソ戦勝後ニ於ケル一般ノ状態ハ動モスレハ現況ニ眩惑シテ半途ノ成功ニ甘ンシ往々果敢ナル追撃ヲ躊躇シ功ヲ一篋ニ虧クコト多シ故ニ攻撃功ヲ奏スルヤ殊ニ野戦砲兵ハ其速度ヲ利用シ猛烈果敢ニ追撃ヲ行ヒ敵ヲ殲滅シテ戦勝ノ効果ヲ完カラシムルコトヲ勉ムヘシ

ト又

同第七十九ニ曰ク

追撃ノ爲前進シタル砲兵ハ追撃射撃ヲ行ヒ敵兵更ニ我カ效力界ヲ脱セントスルニ至レハ危険ヲ顧ミルコトナク敵ヲ急追シテ最有效果距離ニ進出シ猛烈ナル火力ヲ以テ敵ヲシテ再ヒ停止シ若ハ其軍隊ヲ整頓スルヲ得サラシメ之ヲ潰亂ニ陥ラシムルコトヲ勉ムヘシ

ト又

同第八十二日ク

追撃ニ方リテハ一時連繫ノ維持ヲ放棄セサルヲ得サルコトアリ是速ニ敵ヲ急追スルヲ以テ主眼トスレハナリ此場合ニ在リテハ陣地變換ハ勢ヒ之ヲ大隊長若ハ中隊長ノ獨斷ニ委セサルヲ得サルコト多シト又

輜重兵操典第一部第四百十八日ク

難路ヲ通過スルトキハ幹部ハ先頭ニ在リテ歩度ヲ適當ニシ部下ヲシテ齊一ノ行進ヲ爲サシムルコトヲ圖ルヘシト又

同第二部第二十二日ク

散兵ニ彈藥ヲ分配スルハ歩兵自ラ之ヲ行フヲ常トス然レトモ非常ノ場合ニ於テ監視員之ヲ命セラレタルトキハ一名ニテ數馬ヲ保ツノ方法ニ依リ徒手者ヲ集メ之ヲシテ彈藥ノ括包ヲ負條ニテ頸ニ懸ケシメ

自ラ之ヲ指揮シ成ルヘク遮蔽シテ火線ニ到ルヘシ開豁地ニ在リテハ大間隔ニ散開シ通過スヘキ距離大ナルトキハ逐次躍進シテ火線ニ赴クヲ要ス

ト又

同第四十七日ク

軍隊敵ヲ追撃シ或ハ急速ノ前進ヲ行フニ際シテハ之カ需用ヲ充ス爲縦列ハ殆ト晝夜連續行動セサルヘカラス空縦列ノ後方ニ歸行シ再ヒ充實シテ第二梯隊ニ加入スルマテノ間ニ於テ特ニ然リトス此ノ如キ場合ハ即チ縦列長以下全員ノ萬難ヲ排シテ一意専心作戰ノ要求ヲ充スコトニ努力スヘキトキナリトス

ト又

同第六十三日ク

自衛隊ハ臨時編組セラルヘキ部隊ナルノミナラス其兵員ハ十分戦闘ノ法則ニ熟セス射撃ノ教育モ亦洽カラサルモノ多キヲ以テ戦闘ニ方

リテハ幹部ハ部下ヲ督勵シ適當ニ戰鬪ヲ指導スルコトヲ勉メサルヘカラス

ト之レニ依ツテ見レハ此ノ精神ノ躍如タルコトカ明カテ皆率先躬行ヲ要求ヲシテ居ラヌコトハナイノテアル其レテ此ノ率先躬行ハ固ヨリ忠君愛國ノ至誠ト攻撃精神ノ現實ノ依テ然ラシムル所ノモノテアツテ其ノ鞏固ナルニ從ヒ益々完全ナル域ニ達セシムルモノテアル故ニ換言スレハ率先躬行ノ實カ現ハレナカツタナレハ忠君愛國ノ精神ハコ勿論攻撃精神ナルモノ、發揚ト鞏固トハ得テ望ミ得ヘカラサルトテアル其レ故吾人軍人タルモノハ常ニ一層己カ言動ニ注意シテ率先躬行以テ活模範ヲ示スコトニ留意ヲシ完全ナル域ニ達セシムルコトニ努力セネハナラヌノテアル

第二十章 攻撃精神ト廉潔

第一 廉潔トハ何テアル曰ク

之レ私利私慾ヲ去リ其ノ心性ヲ高尚ニシテ品位ヲ保ツノ謂ヒテアルト近來社會ノ道德ノ衰頹ト共ニ廉潔ノ心カナク世ハ舉テ私利私慾ニ汲々トシテ厭ク所ヲ知ラサルノ景況テアル此ノ事タルヤ農工商等ノ如キ利殖ヲ以テ生計ヲ立ツルモノノ如キハ猶ホ恕スヘキテアル然シナカラ苟モ國家ノ干城トシテ護國ノ大任ヲ負ヒ忠誠以テ奉公ニ身ヲ委スル軍人タル者ニシテ若シ廉潔ノ心ナク唯徒ニ貨ヲ愛シテ財ヲ蓄フルニ汲々タルカ如キ者カアツタナレハ其レ等ハ實ニ其ノ心事ノ陋劣ナル極ノ極ナルモノテアル

第二 諺ニ曰ク

鷹ハ飢エテモ穂ヲ摘マス

ト又曰ク

武士ハ食ハネト高揚枝

ト軍人タルモノ身ヲ持スル宜敷ク廉潔テナケレハナラヌ若シ軍人ニシテ其ノ心ニ廉潔ノ意ヲ缺キタリトセンカ從テ

- 一、其ノ品性ハ無下ニ賤クナリ
 - 二、其ノ自己ノ品位ハ之レヲ保ツコトハ出來ナクナリ
 - 心ニ慾ヲ生シ行ヒ隨テ卑シクナリ遂ニハ
 - 一、忠節ヲ盡スコトモ出來ス
 - 二、禮儀ヲ正シクスルコトモ出來ス
 - 三、武勇ヲ尙フコトモ出來ス
 - 四、信義ヲ重ンスルコトモ出來ス
 - 五、質素ヲ旨トスルコトモ出來ス
- シテ其ノ身ヲ誤リ家聲ヲ損シ世ニ立ツテ人ト交ルコトカ出來ナクナル様ニ成ルノテアル斯クテハ軍人精神ノ何レニ存スルヤヲ知ルヘカラサルハ勿論又攻撃精神ノ發揚ヲ望マント欲スルモ其ノ得ヘカラサルハ必然テアル故ニ軍人タル者ハ宜シク自己ノ社會ニ於ケル位置ヲ鑑ミ其ノ行ヒノ及ホストコロノ大ナルコトヲ考ヘ自ラ持スルニ高潔ニシテ其ノ言動ヲ慎ミ貪ラス利ニ走ラス社會ノ模範トナルコトヲ覺

悟ヲセネハナラヌ

第二十一章 攻撃精神ト突擊精神

第一 突擊精神トハ何テアルカ曰ク

突擊精神トハ己ヲ捨テ己ヲ空フシ生ヲ思フトコロノ感念ナク一意慕然突進スル精神テアツテ生死ヲ顧ミス猛烈トシテ死地ニ突入スルノ精神テアル即チ換言スレハ

- 一、功名ナル念慮ヲ去リ
- 二、利慾ヲ思フ心ヲ絶チ

唯々君ノ爲メ國ノ爲メニ一身ヲ犠牲ニ供シテ勇往邁進スルトコロノ精神テアル

第二 歩兵操典綱領第二ニ曰ク

戦闘ニ最終ノ決ヲ與フルノハ銃劍突擊トスト又

第二十二章攻撃精神ト教練第三、歩兵操典第一部中ニ於ケル

- 一、八ノ第六十二ニ曰ク云々……
 - 二、九ノ第六十三ニ曰ク云々……
 - 三、十二ノ第八十七ニ曰ク云々……
 - 四、十三ノ第八十八ニ曰ク云々……
 - 五、十四ノ第八十九ニ曰ク云々……
 - 六、十六ノ第九十一ニ曰ク云々……
 - 七、十七ノ第二百三ニ曰ク云々……
- ト及第二部ノ中ニ於ケル
- 一、十ノ第三十八ニ曰ク云々……
 - 二、十一ノ第三十九ニ曰ク云々……
 - 三、十二ノ第四十二ニ曰ク云々……
 - 四、十三ノ第四十一ニ曰ク云々……
 - 五、十四ノ第四十二ニ曰ク云々……

六、二十ノ第八十五ニ曰ク云々……

七、二十一ノ第八十六ニ曰ク云々……

八、二十二ノ第八十九ニ曰ク云々……

以上ヲ参照ラシタナレハ之ニ依テ突撃ノ戦闘ニ重要ナル其ノ價值ト効力トヲ判知スルコトカ出來ルノテアル然シナカラ此ノ突撃ハ軍人精神カ充實ラシテ攻撃精神ノ鞏固ナルコトニ依テ功ヲ奏スルモノテアル故ニ攻撃精神ハ突撃精神ノ真髓テアルト云フコトカ出來ルノテアル從テ此ノ突撃精神ナルモノハ雷ニ戰時ニ於テ敵ト相戰フ場合ニ於テノミ要スルモノハナイノテアル日常吾人ノ修養上ニ於テモ亦極メテ必要缺クヘカラサルモノテアル彼ノ部下ノ其ノ上官ノ指示スル主義方針ニ從ツテ一意專心自己ノ任務ニ奮進スル爲メ又此ノ精神ヲ要スルノテアル故ニ吾人ハ日常右ノ心ヲ以テ勤務ニ從ヒ此ノ精神ヲ養ヒ一旦緩急ノアツタトキニハ直ニ立ツテ君國ノ爲メ貢獻ヲスルコトヲ覺悟ラシテ居ラネハナラヌノテアル

第二十二章 攻撃精神ト教練

第一 歩兵操典總則第一ニ曰ク

教練ノ目的ハ指揮官及兵卒ヲ訓練シテ諸制式及戰鬪ノ諸法則ニ習熟セシムルト同時ニ軍紀嚴正ニシテ精神鞏固ナル軍隊ヲ練成シ以テ戰鬪百般ノ要求ニ適應セシムルニ在リ

ト即チ操典ハ各個人ノ技能ヲ練磨ヲスルモノテハナクシテ部隊ヲ練成ヲスル主義ヲ明ニ示サレタモノナラン而シテ又

歩兵操典各個教練要則第十六ニ曰ク

各個教練ノ目的ハ兵卒ヲ訓練シテ諸制式ニ熟セシムルト同時ニ軍人精神ヲ鍛ヒ軍紀ヲ練リ部隊教練ノ確乎タル基礎ヲ作ルニ在リ

ト即チ之ニ依テ見レハ各個教練ハ部隊教練ノ基礎テアルコトハ明カテ吾人ノ銘肝スヘキ事柄テアル

第二 歩兵操典第一部各個教練第五十四ニ曰ク

突撃ヲ爲サシムルニハ著劍ノ後左ノ號令ヲ下ス

突撃に 進メ

豫令ニテ右手ヲ以テ木被ノ所ニ就キ銃ヲ提ケ若擔銃ニ在ルトキハ第四十二準シ銃ヲ肩ヨリ下ロシ床尾ヲ少シク地面ヨリ離シ銃口ヲ概ネ右肩ノ前ニ在ラシメ左手ヲ以テ劍鞘ヲ握リ動令ニテ駈歩ト同要領ニテ前進シ次テ「突入メ」ノ號令ニテ吶喊シ猛烈果ニ敵ニ向ヒテ突入シ格闘ス

ト同第五十五ニ曰ク

散兵ノ教練ハ兵卒ニ散兵線中ノ一人トシテ散兵ノ動作即チ地形ヲ利用シテ

一、行進シ

二、停止シ

三、射撃シ

四、突撃スルコト

ニ熟セシメ且攻撃精神ヲ養成スルヲ目的トス

ト即チ之ニ依テ見テモ操典カ攻撃的ノ動作ヲ獎勵ヲシ攻撃精神ノ養成ニ努力シツ、アルコトハ明カテアル

第三 又歩兵操典第一部ノ中ニ於テ

一、第百十八ニ曰ク

凡ソ幹部ハ困難ニ遭遇スル毎ニ益々勇氣ヲ倍加シ常ニ部下ノ志氣ヲ鼓舞激勵セサルヘカラス特ニ突撃ニ際シテハ滿身ノ氣力ヲ奮ヒ率先敵陣ニ突入シ奮戰勇闘以テ勝利ヲ得ルコトニ全力ヲ盡スヘシ

二、第百二十二ニ曰ク

戦闘ハ行軍及劇働ヲ爲シ且缺乏ニ堪ヘタル後始マルヲ常トス而シテ數晝夜ニ亘ルコト多シ故ニ兵卒ハ勇猛沈著ニシテ自信ト耐忍トニ富ミ歩兵戦闘ノ慘烈ナル感情ニ克チ以テ戦闘ノ要求ヲ充足シ得サルヘカラス

三、第百二十一ニ曰ク

兵卒ハ敵ノ火力熾ニシテ死傷極メテ多キトキト雖從容自若トシテ事ニ當リ決シテ逡巡スヘカラス凡テ疑懼退走ハ敗滅ニ陥リ猛烈果敢ナル前進ハ常ニ勝利ヲ得ヘキモノナルコトヲ銘肝スヘシ

四、第百二十二ニ曰ク

兵卒ハ防禦ニ在リテハ專心其位置ヲ固守シ決シテ動搖スヘカラス敵兵愈々接近スルニ從ヒ我カ火器ノ殺傷力益々多キコトヲ確信シ泰然逆襲ノ時機ヲ待ツヘシ若シ彈藥ヲ射盡シ又ハ敵ノ重圍ニ陥リタルトキハ自己ノ銃劍ニ信賴シ最後ノ勝利ヲ求ムルコトヲ勉ムヘシ

五、第百二十四ニ曰ク

數個ノ中隊相混淆シ新ニ區分セラレサルトキハ兵卒ハ最寄分隊長ノ指揮ヲ受ケ奮闘スルコト所屬分隊長ニ於ケルカ如クナルヘシ分隊長以上ニ在リテモ亦然リ

六、第百二十五ニ曰ク

軍人ハ許可ナク其所屬部隊ヲ離ルルコトヲ得ス若任務ヲ帶ヒス或ハ

尙戰團ニ堪エ得ヘキ輕傷ニシテ恣ニ戰線ヲ去リ又ハ戰團中命令ヲ受ケスシテ負傷者ニ介護若ハ運搬スルカ如キハ卑怯ノ行爲ニシテ軍人ノ本分ヲ傷クルモノトス

七、第百三十八ニ曰ク

敵ノ有効射撃下ニ於テ一地ニ據レル散兵線ハ動モスレハ其地ニ固著シ易ク更ニ之ヲ前進セシムルハ困難ニシテ敵ニ接近スルニ從ヒ益々其度ヲ増スモノトス故ニ必要以外ニ永ク停止セシムルコトヲ避ケ間斷ナク勇進スルノ氣勢ヲ保持セシムヘシ特ニ能ク遮蔽セラレタル敵ノ射撃下ニ久シク停止スルハ徒ニ夥多ノ損害ヲ招クコトニ留意セサルヘカラス

八、第百六十二ニ曰ク

戰團ノ進捗ニ從ヒ損傷ヲ補充シ尙散兵ヲ増加シテ火力ヲ増シ漸次敵ニ近接シ適時銃劍ヲ著ケ終ニ敵ニ肉薄シ得ルニ至レハ中隊長ハ率先先頭ニ立チ第百二ニ準シ中隊ノ全力ヲ擧ケテ猛烈果敢ニ敵陣ニ突入

スヘシ中隊ノ精神的團結ノ鞏固ハ實ニ此瞬間ニ發現スルモノナリ
九、第百六十三ニ曰ク

一回ノ突撃ニシテ若成功セサルトキ縱ヒ他隊ノ援助ヲ缺クモ志氣旺盛ニシテ精練ナル中隊ハ再三、再四突撃ヲ反覆シ得ルモノナリ苟モ死力ヲ盡シテ奮進セハ如何ニ頑強ナル敵ト雖終ニ之ヲ敗滅ニ陥ラシムルコトヲ得ヘシ

十、第百六十四ニ曰ク

突撃功ヲ奏セハ敗退スル敵ニ向ヒ直ニ追撃射撃ヲ行フヘシ此際沈著セル散兵ノ射撃ハ多大ナル効果ヲ收メ殆ト敵ヲ殲滅スルニ至ルモノトス

敵我カ有効射撃界ヲ脱セントスルヤ中隊長ハ直ニ中隊ヲ提ケテ前進スヘシ苟モ敵陣ヲ奪取シ得タル成功ニ満足シ攻撃ノ劇働ニ疲レ部下ノ體力ヲ愛惜シテ躊躇スルカ如キコトアルヘカラス

十一、第百八十四ニ曰ク

夜間ノ攻撃運動ハ特ニ靜肅ニシ連繫ヲ保チ確實ニ行進方向ヲ維持シ敵ニ接近スルヲ主要トス之カ爲メ勉メテ單一ナル隊形例ヘハ密集隊形ニ在ル中隊ヲ併列シ又ハ重疊セルモノヲ用ヒ且危険ナル外翼ヲ警戒シ要スレハ裝填ヲ禁シ近ツク豫備隊ヲ隨ヘテ前進シ火戰ヲ行フコトナク直ニ突撃ニ移ルヲ可トス

十二、第百八十七ニ曰ク

突撃ノ機漸ク近ツクニ至レハ大隊長ハ第一線ニ近ク位置シ敵ノ全般ヲ通視シ詳ニ部下大隊及比隣部隊ノ戰況ヲ觀察シ以テ突撃ノ機會ヲ看破セサルヘカラス此時ニ於テ大隊長ノ勇敢ナル動作ハ部下ヲ奮起セシメ既ニ勝利ノ第一歩ヲ占ムルモノトス

十三、第百八十八ニ曰ク

敵兵動搖ノ色アルトキハ大隊長ハ直ニ之ニ乘シ大隊ノ全力ヲ揮ヒ率先シテ突撃ヲ實施スヘシ然トモ前線ニ在ル各中隊長ハ好機ニ投シ自ラ突撃ヲ決行スルコトニ躊躇スヘカラス一ノ中隊突撃ニ移リタル片ハ

他ノ中隊モ亦直ニ起チテ突撃ヲ行ヒ一步モ後レサランコトヲ期スヘシ敵線ノ一部ト雖我カ猛烈ナル突撃ヲ受クルトキハ全線爲ニ動搖スルモノナリ故ニ大隊長ノ企圖スル突撃實施ニ先チ勇敢ナル中隊突撃ヲ實施セハ此機會ヲ捉ヘテ戰勝ヲ收メンコトニ努力スルハ大隊長ノ責任ナリ若先ニ進ミタル中隊ヲシテ孤立援ナキニ至ラシムルカ如キコトアルトキハ全ク大隊戰鬪ノ本旨ニ悖ルモノトス

十四、第百八十九ニ曰ク

頑強ノ敵ニ對シテハ一回ノ突撃能ク功ヲ奏セサルコトアリ此場合ニ在リテハ適當ナル位置ニ蹈止リ更ニ突撃ノ機會ヲ喚起シ百折不撓ノ勇氣ヲ現ハシ飽クマテ突撃ヲ反覆スヘシ

十五、第百九十二ニ曰ク

突撃功ヲ奏セハ前線ニ在ル各部隊ハ直ニ猛烈ナル追撃射撃ヲ行フヘシ射撃ニ加ハラサル部隊ハ速ニ隊伍ヲ整ヘ前進ノ準備ヲ爲スヘシ敵兵我カ有効射撃界ヲ脱セントスルヤ大隊長ハ大隊ヲ提ケテ之ヲ急

追シ潰亂ニ陥ラシムルヲ要ス

十六、第九十一ニ曰ク

防支正面ニ在ル大隊敵ノ突撃ヲ受クルニ方リテハ最モ沈著シテ之ヲ射撃シ敵ノ萎靡スルニ乘シ決然逆襲スヘシ敵兵若我カ陣地ニ突入セハ大隊長以下滿身ノ勇ヲ奮ヒテ敵ト格闘シ之ヲ殲滅スルヲ要ス

十七、第二百三ニ曰ク

豫備隊ニ關シテハ大隊ニ示セル要旨ニ從フヘシト雖聯隊長ハ最後ノ時期ニ至ルマテ若干部隊ヲ手裏ニ貯ヘ終ニ軍旗ト共ニ突撃ヲ實施スルモノトス

ト又步兵操典第二部ノ中ニ於テ

一、第十八ニ曰ク

戰鬪間各級指揮官ハ常ニ地形ノ利用ニ注意シ軍隊ノ行動ヲシテ之ニ適合セシムルコトヲ勉ムヘシ然レトモ之カ爲攻撃精神ヲ鈍ラシ或ハ戰鬪動作ヲ遲緩シ若ハ示サレタル行動ノ範圍ヲ脱逸スル等ノコトア

ルヲ許サス

二、第二十一ニ曰ク

戰鬪ノ進捗ニ伴ヒ步兵ハ射撃ノ威力ヲ最高度ニ發揚シ以テ終ニ突撃ヲ實施ス步兵ノ突撃ニ先チ砲兵ハ攻撃點ニ火力ヲ集中シ機關銃ハ瞬間ニ至大ノ効力ヲ現ハシ工兵ハ要スレハ突撃部隊ノ爲メ進路ヲ開キ騎兵ハ敵ノ側背ヲ脅威スル等諸兵種協同ノ實ヲ發揮シ以テ戰勝ヲ收ムルコトニ努力スヘシ

三、第二十三ニ曰ク

戰勝ヲ得タル軍隊ハ其効果ヲ完全ナラシムル爲猛烈果敢ニ追撃ヲ行ヒ敵ヲシテ殲滅ニ陥ラシムヘシ

四、第二十四ニ曰ク

退却ハ敗走ニ陥リ易ク動モスレハ收集スヘカラサルニ至ルモノトス故ニ指揮官ハ縦ヒ戰況不利ノ場合ニ在リテモ尙諸種ノ手段ヲ盡シテ戰勢ヲ換回スルコトヲ圖ルヘシ此際步兵ハ火力ヲ増大シ要スレハ突

撃ヲ行ヒ砲兵及機關銃ハ我ニ最モ危害ヲ與フル敵ニ對シテ射撃ヲ集中シ騎兵ノ敵ハ側面ニ對シテ脅威ヲ試ムル等各兵種協同シテ最後ノ勝利ヲ獲得スルコトヲ勉メサルヘカラス

五、第二十五ニ曰ク

凡ソ攻撃ハ勝利ヲ得ヘキ唯一ノ手段ナリ故ニ指揮官ハ狀況已ムヲ得サルトキノ外常ニ攻撃ヲ決行スヘシ攻撃ノ要ハ剛健ナル意思ヲ以テ専心敵ニ向ヒ勇進スルニ在リ

六、第二十七ニ曰ク

攻撃ハ包圍ニ依ルヲ有利トス而シテ包圍ヲ行フニハ數縱隊ノ併進ニ依ルト後方部隊ノ加入ニ依ルトヲ問ハス展開ニ先チ之ヲ準備スルヲ要ス既ニ展開セル部隊ノ移動ニ依リ包圍ヲ行ハントスルカ如キハ地形特ニ有利ナルカ若ハ敵ノ目視ヲ避ケ得ル場合ニ限ルモノトス包圍ハ敵ノ正面ト側面トヲ併セ攻撃スルモノニシテ兩翼ヲ同時ニ包圍スルニハ著シク優勢ナル兵力ヲ有スルニアラサレハ正面薄弱トナ

リ危殆ニ陥ルノ虞アリトス

包圍ハ元來高級指揮官ノ戰術上ニ於ケル兵力ノ用法ニ屬スルモノニシテ直接戰鬪スル各部隊ノ攻撃ハ其部局ニ於テ常ニ敵ノ正面ニ向ヒ實行スルモノトス

七、第三十三ニ曰ク

展開シタル各部隊ハ攻撃前進ヲ起シ一意敵ニ近接スルコトヲ勉ムヘシ

砲兵ハ其火力ニ依リ敵ヲ制壓シ以テ歩兵ノ攻撃前進ヲ容易ナラシムヘシ然レトモ地形ヲ利用シ又ハ工事ヲ施セル敵ニ對シテハ適時ニ砲火ノ効果ヲ收メ難キヲ以テ歩兵ハ徒ニ砲戰ノ結果ヲ待ツコトナク却テ彼我砲戰間ニ於テ前進スルヲ要ス

八、第三十六ニ曰ク

歩兵戰鬪既ニ酣ナルニ至レハ砲兵ハ縦ヒ敵砲ヨリ至大ノ損害ヲ受クルコトアルモ之ニ拘ラス其砲火ヲ敵ノ歩兵就中決戰ヲ企圖スル方面

ニ集メ又敵ノ機關銃ノ位置ヲ求メテ之ヲ破壊スルコトヲ勉メ以テ歩兵ノ攻撃ヲ援助スヘシ此際歩兵ノ猛烈ナル前進ハ敵ヲシテ其軍隊ヲ現出セシメ我カ歩砲火ノ協同ニ依リ敵ヲ萎靡セシムルモノトス

九、第三十七ニ曰ク
一旦占有セル地區ハ尺土ト雖再ヒ之ヲ敵ニ委スヘカラス攻者ハ之カ爲要スレハ器具ヲ使用スルコトアリト雖築設セシ掩護物ニ固著シテ攻撃ノ進捗ヲ遲滯スルコトヲ許サス

剛健ニシテ思慮ニ富ム所ノ歩兵ハ敵火ノ爲前進極メテ困難ナル場合ニ在リテモ亦器具ヲ使用シツ、前進ヲ續行スルモノトス
十、第三十八ニ曰ク

敵ハ單ニ射撃ノ効果ニ依リ之ヲ驅逐シ得ルモノニアラス故ニ攻者ハ常ニ突撃ヲ實施シ以テ最後ノ勝利ヲ期セサルヘカラス

砲兵ハ歩兵ノ敵陣ニ突入スル直前マテ突撃點ニ向ヒ猛火ヲ集中スヘシ此際特ニ其一部ヲシテ最モ有効ノ距離マテ歩兵ニ隨伴セシムルヲ

利トス

機關銃ハ決勝ノ機ニ至レハ危險ヲ顧慮スルコトナク勉メテ前方ニ進出シ敵ヲ猛射スヘシ機關銃ノ効果ハ此瞬時ニ於テ極メテ大ナルモノトス

工兵ハ通常歩兵ノ爲其進路ヲ開キ障礙物ヲ除キ又奪取シタル地區ヲ強固ニスルコトニ任ス

十一、第三十九ニ曰ク

前線ニ在ル指揮官ハ射撃ノ成果其他敵ニ對シテ獲得シ得ヘキ利益ヲ最モ速ニ判別シ得ルヲ以テ機會ヲ逸セス直ニ突撃ヲ決行スルヲ要ス此際後方部隊ハ直ニ前線ニ跟隨シテ之ヲ推進シ其効果ヲ完ウスルコトヲ圖ルヘシ然レトモ上級指揮官ハ前線ニ在リテ自ラ好機ヲ看破シ突撃ヲ命令シ又ハ後方部隊ヲ前線ニ増加シ以テ突撃ノ動機ヲ誘起スルヲ要ス

比隣部隊突撃ニ移ルトキハ各部隊ハ協同シテ突撃ヲ實施スヘシ

突撃ヲ決行セハ敵ハ百方手段ヲ盡シテ抵抗シ若ハ逆襲ヲ試ムルコトアルヘシ故ニ指揮官及兵卒ハ全力ヲ盡シテ奮闘シ突撃ノ成果ヲ完ウセサルヘカラス

十三、第四十二曰ク

突撃スル部隊ニハ必要ニ應シ破壊器具及手榴彈等ヲ携行セシメ要スレハ工兵ヲ附屬ス手榴彈ヲ使用スルトキハ敵ノ不意ニ出テ之ヲ投ケタル瞬時ヲ利用シテ突入スヘシ蓋シ敵ト手榴彈ノ戰鬪ヲ交ヘタル後ニ於テ突入セントスルカ如キハ却テ進襲ノ氣勢ヲ挫折スルモノトス

十三、第四十一ニ曰ク

突撃ヲ行ヒタル軍隊ハ其陣地ヲ奪取シタルヲ以テ足レリトセズ敵ヲ殲滅センカ爲追撃射撃ヲ爲シ得ル地點ニテ攻撃ヲ續行スヘシ而シテ追撃射撃ニ加ハラサル部隊ハ速ニ隊伍ヲ整ヘ必要ナル警備ヲ爲シ敵ノ恢復攻撃ニ備ヘ且爾後ノ追撃運動ヲ準備セサルヘカラス

砲兵及機關銃ハ一部ト雖速ニ射撃ニ便ナル位置ニ進出シ以テ追撃射

撃ヲ行フヘシ但多數ノ軍隊ヲ群集シ又ハ著大ナル目標ヲ現ハストキハ其瞬時ニ於テ敵陣ノ他部特ニ敵ノ砲兵ノ爲ニ多クノ損害ヲ被ルコトアルコトニ注意スヘシ

十四、第四十二ニ曰ク

突撃ヲ撃退セラレタル場合ニ於テ尙密集部隊ヲ有スルトキハ其推進ニ依リ第二第三回ノ突撃ヲ敢行スヘシ縦ヒ推進部隊ナキト雖幹部ト兵卒トノ勇氣ニ依リ至近ノ所ニ蹈止マリ猛烈ナル射撃ヲ爲シ氣勢ヲ恢復シテ屢々突撃ヲ繰返シ終ニ其目的ヲ達スルニ至リテ止ムヘシ

十五、第五十四ニ曰ク

防禦ハ動モスレハ全ク受働ノ守勢ニ陥リ我カ動作ノ自由ヲ失フニ至ルモノトス故ニ苟モ時機ヲ得ハ決然攻勢ニ轉セサルヘカラス

十六、第五十五ニ曰ク

決戰的勝利ヲ得ントスル防禦ニ在リテハ必ス攻撃ノ動作ヲ併セ行ハサルヘカラス

十七、第七十四ニ曰ク

凡ソ戰勝後ニ於ケル一般ノ状態ハ動モスレハ現況ニ眩惑シテ半途ノ成功ニ甘ンシ往々果敢ナル追撃ヲ躊躇シ功ヲ一篋ニ缺クニ至ルコト多シ故ニ各級指揮官ハ敵兵退走セハ直ニ猛烈ナル追撃ヲ始メ之ヲ窮追シ敵ヲ殲滅シテ戰勝ノ効果ヲ完ウスルコトヲ勉ムヘシ
 敵兵退却ヲ行ハントスルニ方リテハ故ラニ一部隊ヲ以テ我ニ向ヒ逆襲シ其機ニ乘シテ戰場ノ離脱ヲ圖ルコトアリ夜間又ハ濃霧ノ際ニ於テ特ニ然リ此ノ如キ場合ニ在リテハ其逆襲ニ牽カレテ追撃ノ好機ヲ逸スルカ如キコトナキヲ要ス

十八、第七十五ニ曰ク

敵陣ニ突入セシ各部隊ハ追撃射撃ヲ行ヒ敵兵我カ有効射撃界ヲ脱ヤントスルヤ直ニ運動ヲ始メ猛烈果敢ニ敵ヲ追撃スヘシ此際騎兵ノ機敏ナル動作ハ敵ヲ擾亂シ追撃ノ結果ニ大ナル影響ヲ與フルモノトス
 高級指揮官ハ比較的集結シ進出ニ便ナル部隊ヲ以テ速ニ追撃隊ヲ編

成シテ追撃ニ任セシメ既ニ追撃中ニ在ル各部隊ヲシテ秩序ヲ整ヘ更ニ前進スルノ準備ヲ爲サシムヘシ

十九、第七十六ニ曰ク

戰鬪後ハ勝者ノ疲勞モ亦大ナリト雖敗者ハ體力氣力共ニ一層困憊シ其疲勞ハ殆ト極度ニ達スルモノナルカ故ニ勝者ハ一意追撃ヲ續行シ以テ最終ノ勝利ヲ完ウスヘシ此際各級指揮官ハ部下ニ對シテ過劇ノ動作ヲ要求スルコトヲ避クヘカラス

二十、第八十五ニ曰ク

夜襲ハ殆ント步兵ノ專任スル所ニシテ其奏功ノ要訣ハ不意ニ敵ニ肉薄シ銃劍ヲ揮ヒ一舉ニ決戰ヲ求ムルニ在リ

二十一、第八十六ニ曰ク

夜間ノ突撃ハ至近ノ距離ヨリ之ヲ始メ各級指揮官ハ成シ得ル限り部下ヲ掌握シ敵陣ノ一部ヲ猛烈ニ突破スヘシ而シテ突撃功ヲ奏セハ各部隊ハ迅速ニ秩序ヲ恢復シ警備ヲ嚴ニシ敵ノ恢復攻撃ニ備ヘ成ルヘ

ク速ニ敵ヲ追撃スヘシ
 二十二、第八十九ニ曰ク
 夜間ノ防禦ニ於テハ適時ニ比隣部隊ノ協同ト後方部隊ノ援助トヲ期
 シ得サルカ故ニ各部隊ハ斷乎タル決心ヲ以テ各々其位置ヲ固守シ最
 近距離ニ於テ火力ヲ發揚シ敵ヲ殲滅スルコトヲ勉ムヘシ即チ敵兵咫
 尺ノ地ニ來ルトキ之ニ猛烈ナル射撃ヲ加ヘ或ハ手榴彈ヲ投シ此瞬間
 ニ於テ銃劍ヲ揮ヒ決然逆襲ヲ行フヘシ
 ト之レニ依テ見ルモ操典ニ於テハ絶對的ニ攻撃精神ヲ要求ヲシ之レ
 ヲ鼓勵ヲシテ居ルコトカ明カテ教練ニ於テハ凡テ此ノ精神ヲ體シテ
 其ノ教導啓發ニ從事スルコトカ緊要テ又此ノ精神ノ缺クヘカラサル
 事項タル事カ明瞭テアル

第二十三章 攻撃精神ト劍術

第一 劍術トハ何テアル

劍術教範ノ總則第一ニ曰ク
 劍術ノ目的ハ白兵ノ使用ニ習熟シ且體力殊ニ氣力ヲ養成シ攻撃精神
 ヲ發揚スルニ在リ
 ト即チ

一、白兵ニ對スル使用法ノ習熟
 二、體力ノ養成
 三、攻撃精神ノ發揚

ト相伴フヘキモノテアル即チ之ニ依ツテ吾人ハ戰鬥ニ當リテハ能ク
 一、勇猛ニシテ沈著ヲシ
 二、自信ト耐忍トニ富ミ

斯クシテ此ノ慘烈ナル感情ニ克チテ戰鬥ノ要求ヲ充足シ得ルトコロ
 ノ體力ト精神即チ體力ト攻撃精神トヲ養成ヲセネハナラヌノテアル
 第二 我國ハ古來ヨリ尙武ノ國テアツテ其ノ特有ノ精華タル武士道ハ
 實ニ武術ヲ以テ神隨トシテ居ルモノテ武士道ハ實ニ武術ニ依テ發現

セラレテ居ルノテアル其レテ此ノ劍術ハ白兵ヲ使用ヲシテ敵ニ對シ
 勝負ヲ爭フ演習ナルヲ以テ必スヤ敵ヲ恐レスニ勇猛果敢ニ動作ヲセ
 ネハナラヌノテアル其レ故ニ之レニ依テ

- 一、勇敢ナル氣象ト
- 二、不撓ニシテ不屈ナル精神ト

ヲ養成ヲシ攻撃精神ヲ發揚ヲサスルコトカ出來得ルモノテ又實ニ劍
 術ニ如クモノハナイノテアル

第三 劍術教範ノ總則第七ニ曰ク

劍術ノ演習ハ常ニ實戰ニ鑑ミ精神ヲ爽快ニシ勇壯果敢敵ヲ壓伏スル
 ノ氣力ヲ以テ之ヲ行フヘシ然レトモ嚴ニ規律ヲ守リ禮讓ヲ重スルヲ
 要ス

ト又

同總則第十二ニ曰ク

基本動作ニ習熟スルニ至リ假標ヲ設置シ遠距離ヨリ各種ノ步度ニテ

前進シ擊突ノ動作ヲ行フハ頗ル價值アリトス故ニ時機ヲ得ル毎ニ之
 ヲ行ハシムヘシ又單ニ敵手ヲ假想シ軍刀軍用銃ヲ用ヒテ以上ノ演習
 ヲ行ハシムヘシ

ト又

同總則第十一ニ曰ク

夜間或ハ不齊地ニ於テ又勞働或ハ激烈ナル運動ノ後若クハ異種白兵
 ニ對シ劍術ノ演習ヲ行フハ自信力ヲ増進セシムルノ効益アルモノト
 ス

ト又

試合演習ノ通則第二十三ニ曰ク

教習試合ハ試合ノ要領ヲ教授スル演習ニシテ習技者ヲシテ

- 一、敵手ノ意志動作ヲ判斷シ
- 二、基本動作ヲ適實ニ應用セシメ

殊ニ

一、常ニ攻勢ヲ取リ

二、機先ヲ制シ

果斷決行ノ氣力ヲ得セシムル如ク指導スルモノトス

ト又

同シク第二十四ニ曰ク

教習試合ニ於テ教官ハ

一、習技者ニ適當ノ虛隙又ハ機會ヲ與ヘテ之ヲ擊突セシメ

二、或ハ習技者ノ虛隙ヲ擊突シ之ヲ防拂シテ返擊(突)セシメ

以テ適實ニ使術ノ應用ヲ教授スルト共ニ其ノ攻撃精神ヲ誘發スル如クスヘシ

ト又

同シク第二十六ニ曰ク

互格試合ハ習技者相互ノ試合演習ニシテ互ニ攻防ノ術ヲ盡シ勝敗ヲ決セシメ以テ使術ノ應用ニ精熟シ自信力ヲ増シ氣勢ヲ發揚セシムル

モノトス

ト又

同シク第二十八ニ曰ク

敵ニ先スルハ勝ヲ制スルノ要訣ナリ故ニ敵手ノ意志動作ヲ察知シ其ノ乘スヘキノ機ヲ失ハサルコト肝要ナリ

ト又

同シク第二十九ニ曰ク

擊突ハ勇壯果敢己ヲ捨テ、施行シ若擊突功ヲ奏セサルモ尙敵手ヲ壓伏スルノ氣力ヲ以テ再ヒ擊突スルヲ要ス縱ヒ擊突功ヲ奏シタリト信スルモ決シテ氣勢ヲ弛ムヘカラス是レ嗣後ノ變ニ應センカ爲ナリ

ト又

同シク第三十二ニ曰ク

總テ防拂シタルトキハ直ニ返擊(突)ヲ行フヘシ若シ防拂スルノ餘裕ナキトキハ寧ロ己ヲ捨テ、擊突ヲ行フヘシ蓋シ其ノ氣勢ノ如何ニ依

リテ敵手ヲ躊躇セシメ反テ我カ撃突ノ功ヲ奏スレハナリト又

劍術教範乘馬軍刀術馬上格闘ノ要訣中第十七ニ曰ク

馬上ノ格闘ニ在リテハ機先ヲ制スル者常ニ勝ヲ制ス故ニ敵ニ對シテハ攻撃ヲ取ルヲ原則トス

ト即チ其ノ専ラ志氣ノ養成攻撃精神ノ發揚ニ重キヲ於ケルコトヲ窺フコトカ出來ルノテアル而シテ一度此ノ技術ニ習熟ヲシタナレハ必スヤ身ニ恃ム所カアルモノテ身ニ恃ムトコロカアルナレハ必ヤ安全テアツテ常ニ勇猛果敢ニ動作ヲスルコトカ出來得ルモノテ即チ之ニ依ツテ

- 一、戰闘ニ當ツテハ其ノ困難ニ遭遇スル毎ニ益々勇氣ヲ益シテ部下タル者ハ志氣ヲ鼓舞シ激勵ヲシ尙突撃ニ際シテハ率先シテ敵陣ニ突入ヲシ奮戰勇闘ヲシテ勝利ヲ得ンコトニ全力ヲ盡スコトカ出來
- 二、防禦ニ當リ敵カ愈々近ツクニ從ツテ益々自己ノ火器ノ殺傷力ノ

多キコトヲ確信ヲシテ平然自若トシテ逆襲ノ時機ノ來ルノヲ待ツコトカ出來

三、戰闘中彈藥ヲ射盡シタリ又ハ敵ノ重圍ニ陥ツタトキニハ自己ノ銃劍ニ依頼ヲシテ最後ノ勝利ヲ求ムルコトカ出來

四、戰闘ノ進捗ニ從ツテ損傷ヲ補充ヲシ尙ホ散兵ヲ増加シテ火力ヲ増シ漸次敵ニ接近ヲシテ適時ニ銃劍ヲ著ケ終ニ敵ニ肉薄ヲシテ猛烈果敢ニ敵陣ニ突入スルコトカ出來

五、突撃ニ當ツテ若シ一回テ成功ヲセサリシトキニハ縦ヒ他ノ隊ノ助ケカ無イトキテモ再三再四其ノ突撃ヲ反覆ヲシテ死力ヲ盡シテ奮進ヲシ如何ニ頑強ナ敵タリトモ終ニハ之ヲシテ敗滅ニ陥ラシムルコトカ出來

六、突撃ヲシタナレハ敵ハ百方手段ヲ盡シテ抵抗ヲシタリ又ハ逆襲ヲ試ムルコトカアルモノテ能ク此ノ際ニ於テモ全力ヲ盡シテ奮闘ヲシ突撃ノ成果ヲ完ウスルコトカ出來

七、夜襲ニ當リテハ不意ニ敵ニ肉薄ヲシ銃劍ヲ揮ヒ一舉ニ決戰ヲ求ムルコトカ出來

八、夜間防禦ニ於テハ能ク敵ノ咫尺ノ地ニ來ルトキニ於テ之レニ猛烈ナ射撃ヲ加ヘタリ手榴彈ヲ投シタリシテ其ノ瞬間ニ於テ銃劍ヲ揮ツテ決然トシテ逆襲ヲ行フコトカ出來

得ルモノテアル其レテ之レ等ハ即チ白兵ノ力ヲ以テ敵ヲ粉碎セントスル氣力ノ發現テ又攻撃精神ノ實現テアル故ニ劍術ナルモノ、攻撃精神ニ於ケル又其ノ一要素タルヤ明カナル事實テアル

第二十四章 攻撃精神ト射撃

第一 射撃トハ何テアルカ

步兵操典綱領第二ニ曰ク

步兵戰鬪ノ主眼ハ射撃ヲ以テ敵ヲ制壓シ突撃ヲ以テ之ヲ破摧スルニ在リ射撃ハ戰鬪經過ノ大部分ヲ占ムルモノニシテ步兵ノ爲メ緊要ナ

ル戰鬪手段ナリ而シテ戰鬪ニ最終ノ決ヲ與フルモノハ銃劍突撃トスト又

步兵射撃教範總則第一ニ曰ク

射撃ハ戰鬪經過ノ大部分ヲ占メ步兵ノ爲メ緊要ナル戰鬪手段ナリ故ニ射撃技能ノ精熟ハ步兵ノ戰鬪任務ヲ達成スル爲メ必須ノ要件ナリトス

ト即射撃ニ戰鬪ニ於テ其ノ攻撃ト防禦トニ論ナク常ニ採用セララル、手段テアツテ又實ニ敵ニ接近ヲスル一手段テアル

第二 現今火器ト精銳ト築城ノ進歩トニ從ツテ戰鬪ハ通常遠距離ヨリ開始ヲセラレ銃劍ヲ以テ突撃ヲシ敵ト格鬪ヲスルニ至ルマテハ多クノ時間ヲ經過ヲスルノカ普通テアル其レ故ニ此ノ銃劍突撃ヲ實施スル距離ニ達スル爲メハ必ス優勢ナル火器ノ効力ニ依ツテ敵ヲ制壓ラシナカツタナレハ多大ノ損害ヲ受ケ士氣ヲ阻喪ヲシ最終ノ目的ヲ達成ヲスルノニ困難ナルノハ明カテ又其ノ例ニ乏シクハ無イノテアル

第三 射撃ノ教育ハ單ニ

- 一、射撃豫行演習テアルトカ
 - 二、狹窄射撃テアルトカ
 - 三、基本射撃テアルトカ
- ニ依ツテ優秀ナル射手ヲ養成ヲスルコトニノミ傾注ヲセス野外演習ニ於ケル散兵ノ射撃ニ關シ注意ヲスルノハ勿論射撃教育ノ終局ヲ目的ナル野外ニ於テスル應用並ニ戰鬪射撃ニ重キヲ置イテ精神教育ト相伴フテ實戰的ノ射手ヲ養成スルコトニ努力ヲセネハナラヌノデア

第四 歩兵操典第一部第四百四十九ニ曰ク

射撃ノ開始ハ必ス十分ナル効果ヲ豫期シ得ヘキトキ若ハ射撃スルニアラサレハ敵ニ接近スルニ多クノ犠牲ヲ供スヘキ場合ニ於テスルモノトス精練ナル軍隊ハ縱ヒ敵火ノ下ニ在リテモ我カ射撃効力ヲ現ハス能ハサルトキハ自若トシテ妄ニ射撃セサルモノナリ

ト又

同第五百五十二ニ曰ク

彈藥ヲ適當ニ節用シ緊要ノ時ニ臨ミ效果ヲ收ムルニ必要ナル彈藥ニ不足ナカラシムルハ特ニ注意スヘキ所ナリ然レトモ一目標ヲ射撃スルニ決セハ其目的ヲ達スルニ必要ナル彈藥ヲ用フヘシ何トナレハ効力十分ナラサル射撃ハ我カ軍隊ノ銳氣ヲ挫クノミナラス敵ノ志氣ヲ熾ナラシムルヲ以テナリ

ト又

同第五百五十五ニ曰ク

凡テ射撃軍總正シク教育能ク至レル兵卒ハ敵火ノ下ニ在リテ其長ノ命令ヲ嚴守シ確實ニ射撃ノ諸法則ヲ實行シ地物ノ利用及發射ノ時機ニ注意シ常ニ指揮官及敵兵ニ留意シ目標消滅スルカ或ハ射撃中止ノ號令アルトキハ直ニ之ヲ中止シ又縱ヒ總テノ幹部ヲ失ヒ射撃指揮行ハレサル場合ニ於テモ各自ノ思慮ト判斷トニ基キ依然射撃ノ効力ヲ

維持シ得ルモノナリ

ト又

同第六十四ニ曰ク

突撃功ヲ奏セハ敗退スル敵ニ向ヒ直ニ追撃射撃ヲ行フヘシ此際沈着セル散兵ノ射撃ハ多大ナル効果ヲ收メ殆ント敵ヲ殲滅スルニ至ルモノトス

ト又

同第八十二ニ曰ク

展開シタル第一線ノ各中隊長ハ大隊長ノ意圖ニ基キ地形及敵火ノ効力ニ應シ適當ニ諸制式ヲ應用シ大隊ノ攻撃目標ニ向ヒ専心敵ニ近接スルコトヲ勉メ十分ニ火力ヲ發揚シ終ニ突撃ヲ實施スルモノトス
ト即チ戰闘ハ無形上ノ教育ト之レニ伴フトコロノ技術ト相俟テ之ヲ調和ラスルニアラサレハ成功ヲ期シ得ラレヌモノテ操典ノ主義ヲ充足ヲセント欲スルナレハ攻撃精神ヲ養成スル手段トシテ射撃ノ熟達

ヲ圖ルコトカ緊要テアル

第二十五章 攻撃精神ト體操

第一 體操トハ何テアルカ

體操教範總則第一ニ曰ク

體操ハ體力及氣力ヲ養成スルヲ以テ目的トス

ト即チ

一、體力ヲ養成ヲシ

二、氣力ヲ養成ヲスル

ノカ軍隊ニ於ケル體操ナルモノ、目的テアツテ此ノ

一、有形的體格ノ强健ナノト

二、無形的精神ノ剛毅ナノト

カ體育ノ獎勵ニ依ツテ成功ヲシ

一 1、嚴寒トカ酷暑ノ日トカ

第二十五章 攻撃精神ト體操

2、烈風、雨雪ノ天候ニシテ泥濘膝ヲ没スルカ如キ夜トカニ於テ長途ノ行軍ヲ爲シテ後激烈ナル戦闘ヲ交ヘテ敵ヲ撃退ヲシタリ

二 1、糧食カ缺乏ヲシ

2、飲料カ無ク

テ尙數日ノ間僅カニ豆ヤ粟等ヲナメテ空腹ヲ醫シ尙ホ士氣ノ旺盛テアツタリ

シタルコトハ最近戰役ノ示スルトコロノモノテアツテ之レ等ハ凡テ體操教育ノ効果テアル

第二 體操教範徒手體操ノ部第十三ニ曰ク

徒手體操ハ

一、體力ヲ發達セシメ

二、健康ヲ保全シ

三、各機關ノ機能ヲ完全ニシ

四、成育ノ不正ヲ矯正シ

テ軍人ノ姿勢ヲ得セシメ且動作ヲ敏活ナラシムルヲ以テ目的トスト又

同器械體操ノ部第四十三ニ曰ク

器械體操ハ

一、筋力ヲ鞏強ニシ

二、身體ヲ輕捷ナラシメ

活潑勇敢ノ氣象ヲ養成スルヲ以テ目的トス然レトモ此演習ニ於テ第一部ニ示セル目的ヲモ達スヘキコトニ注意スヘシト又

同應用體操ノ部第九十五ニ曰ク

應用體操ハ各種ノ地區地物ニ遭遇スルモ遲躓スルコトナク諸種ノ方法ヲ應用シテ容易ニ之ヲ通過シ得セシムルヲ以テ目的トス故ニ徒步兵ニ在リテハ殊ニ之ニ熟練セシムヘキモノトス

ト體操ハ唯ニ心神ヲ爽快ニシ體力ヲ保有ヲシ諸機關ノ機能ヲ完全ニ發達ヲサスルノミテナク其ノ熟否ハ直ニ劍術ヤ射撃術ニ大ナル關係ヲ有シテ居ルノハ勿論

一、斷崖ヤ絶壁カアツタリ

二、溝渠ヤ河川カアツタリ

シテ其ノ障碍ニ際シ逡巡ヲシ躊躇ヲスルコトナク之レヲ攀登超越シ勇猛果敢ニ前進ヲスルコトヲ得サセ戰場裡ニ於テ其ノ動作ヲ敢行ヲシ斯クシテ攻撃精神ヲ發揚シ得ル一ノ要素テアル

第二十六章 攻撃精神ト行軍

第一 行軍トハ何テアルカ曰ク

之レ軍隊カ或ル一地點ヨリ他ノ一地點ニマテ移ルトコロノ運動ノコトヲ云フノテ大別シテ

一、旅次行軍

二、戰備行軍

ノ二種テアル

野外要務令第二百二十一ニ曰ク

行軍ニ屬スル諸般ノ規定ハ第一敵ニ衝突スルノ虞アルヤ否ヤニ關係ス故ニ衝突スルノ虞ナキ時ニ於テハ旅次行軍ヲ爲シ主トシテ軍隊ヲ休養スルコトヲ顧慮スヘシ

ト又

同第二百二十二ニ曰ク

敵ニ觸接スヘキ虞アルヤ直ニ百般ノ顧慮ヲ棄テ一途ニ戰鬪準備ヲ主トス之カ爲メニハ各部隊ヲ集結シテ大ナル戰術上ノ編合ト爲シ行軍序列ヲ定メ要スレハ縱隊ノ長徑ヲ減縮シ且警戒法ヲ設クルヲ要スト即チ之ニ依テ見レハ

一、旅次行軍ト云フノハ軍隊カ敵ニ衝突ヲスル虞ノアル場合ニ於テ先ツ休養上ノ點ニ顧慮ヲシテ別ニ何ニモ警戒ノ方法ヲ設ケスニ行

ヲ行軍ノコトヲ

二、戰備行軍トハ軍隊カ敵ニ觸接ヲスル虞ノアル場合ニ警戒ノ方法ヲ設ケテ行フ行軍ノコトヲアル

第二 野外要務令第九十九ニ曰ク

凡ソ戰時軍隊ノ爲スヘキ事業ノ大部分ハ行軍ニアリ行軍ハ凡テ作戰ノ基礎ヲ成シ而シテ其實施ノ確實ナルハ其戰鬪ノ結果ヲシテ良好ナラシムルノ原因ナリ

一ノ軍隊適當ノ時機ニ於テ指示セラレタル地點ニ到着シ其戰備ノ整頓シ在ルト否トヲ以テ已ニ勝敗ノ決ト爲スコト往々其例ニ乏シカラス行軍ノ作戰上ニ緊要ナル其レ此ノ如シ

ト之ニ依テ見レハ行軍ノ軍隊ニ於ケル關係ハ一ニ其ノ作戰ノ基礎ヲ爲シ一ハ其ノ行動ノ大部分ヲ占ムヘキ重大ナル事業テアツテ勝敗ノ根本的ノ原因トナルコトハ尠クナイノテアル若シ軍隊ニシテ或ハ任

務ニ對シ行軍ヲ行フニ當リ行軍力カ弱ク途中落伍者カ續發ヲスルニ至ツタナレハ其減少ヨリ生スル不利ノ作戰ニ影響ヲスルコトカ甚タシキノミテナク全隊ノ士氣ノ消長ニ關スルコトカ頗ル大ナルモノテアル戰鬪ニ當リ連續數晝夜ニ亘リテ急強行軍ヲ爲シ能ク時機ニ適合セル敏捷ナル運動ヲナシ尙ホ充分餘力アルハ攻撃精神ハ旺盛ナルニ依ルハ勿論ナレモ又行軍力ノ強健ナリシ結果テアツテ此攻撃精神ノ旺盛ハ行軍力強健ノ結果カ授カツテ力アルコトハ明カテアル故ニ此ノ攻撃精神ノ旺盛ト行軍力ノ強健トノ要求ヲ充足ヲスル爲ニハ即チ

一、行軍力ヲ養成ヲシ

二、困苦缺乏ニ耐ヘシメ

三、自信力ヲ増大ニシ

益々行軍々紀ノ振張ヲ圖ラネハナラヌノテアル

第三 野外要務令第二百ニ曰ク

平時行軍ニ精熟シタル軍隊モ動員ノ時ニ至ツテハ勞苦嚴格ノ慣習ヲ

失ヒタル在郷兵ノ加ハルカ爲メ又砲兵ニ在テハ駢駕輓成ノ慣習ナキ
徵發馬匹ノ加ハルカ爲メ大ニ行軍力ヲ妨害セラル故ニ動員ニ際シ苟
モ練習ノ時間ヲ得ハ之ヲシテ行軍ニ習熟セシムルヲ圖ルヘシ是レ徒
歩兵ニ緊要トス蓋シ徒歩兵ハ行軍ノ初メニ於テ新靴ヲ穿ツカ爲メ特
別ノ困難ヲ感スヘケレハナリ

騎兵ハ動員ヲ行フト雖モ概シテ馬匹ニ變化ヲ及ホスコト少ナシ故ニ
戰時初メヨリ之ニ要求スル非常ノ行軍力ニ堪ヘサル可ラス

ト又

同第二百一ニ曰ク

行軍中軍紀ヲ嚴格ニシ被服、裝具、蹄鐵ヲ監察シ人馬ノ給養及衛生ニ
注意スルハ卽行軍力ヲ保持シ且之ヲ増加スルニ最モ有効ノ方法ナリ
長途行軍ニ於テ徒歩兵ノ靴傷馬匹ノ鞍傷及四肢ノ疾病ハ列兵ヲ減少
ス此減員ノ多少ヲ以テ行軍ニ用ヒタル注意ノ深淺ヲ知り且其軍隊ノ
價值ヲトスルニ足ルモノトス

徒歩兵、乘馬兵及馬匹ニ就キ行軍中絶ヘス監察シ休憩中及宿營ニ於
テ彼等自ラ適當ノ保護ヲ爲スヤ否ヤヲ監察シ且此等ノ事ヲ忽ニスル
者ヲ嚴罰スルハ中隊長ノ責任ナリ而シテ此ノ如キ豫防方法ヲ施スハ
行軍中ノ減員ヲ防ク最良ノ手段トス

ト又

同第二百二ニ曰ク

行軍ノ軍紀ニ慣熟シタル軍隊ニシテ各人深ク注意シ勉メテ行軍ニ要
セサル徒勞ヲ避ケハ永ク缺員ヲ生セシテ行軍スルヲ得ヘシ

ト又第二百四ニ曰ク

軍隊出發後卽道路上ニ出スレハ徒歩兵ハ「途歩」ノ號令若クハ號音ヲ
傳ヘ自餘ノ兵種ニ在テハ「休メ」ノ號令若クハ號音ヲ傳フ是ニ於テ步
ヲ調フルヲ要セス特別ノ時ヲ除クノ外ハ談話シ唱歌シ喫煙スルヲ許
シ刀ハ鞘ニ納メ銃ハ各兵ノ欲スル所ニ從ヒ或ハ右肩左肩ニ擔ヒ或ハ
負革ヲ以テ肩ニ懸クヘシ又絶エテ敬禮ヲ表スルコトナシ而シテ軍隊

ハ路上便利ナル側方ヲ擇ヒ行進スヘク若シ道路ノ兩側便利同シキ時及他隊ニ遭遇セシ時ハ右側ヲ行進スヘシ行軍中背後ニ從フ諸隊ハ皆先頭部隊ニ準スヘク且兵卒ハ勉メテ前後ニ重疊シ以テ縱隊面ヲ擴張セサルコトニ注意スヘシ

廣キ街道ニ於テハ常ニ其一側ヲ虛フシ他隊ノ通過ニ供スヘク狹キ道路ニ在テモ單獨ノ騎兵ヲシテ其歩ヲ停止セシメス又縱隊ノ行進ヲ妨碍スルコトナク疾走スルヲ得セシムヘシ又其隊ニ屬スル乘馬將校ニ在テモ其虛フセル側方ニ出ツルハ唯一時通行ノ時ノミタルヘシ行軍縱隊ノ大ナル時ニ在テハ殊ニ然リ

道路險惡ナルカ或ハ炎熱ノ時ニ在テハ行軍縱隊ヲ兩側ニ分チ中央ヲ虛フスルヲ可トス

各個人恣ニ服裝ヲ紊スヲ禁ス然レトモ襟ヲ開クカ如キ許スヘキ事件ハ其時機ヲ誤ラス速ニ指揮官ヨリ全隊ニ令スヘシ

市街村落ヲ通過シ若クハ疲勞甚シキ時ハ行進譜ヲ奏セシムルヲ可ト

ス市府(長遠ナルトキハ最モ繁昌ナル部分)ヲ通過スル時ハ特別ノ事情アルヲ除クノ外徒歩兵ハ速歩ニ移リ乘馬兵ハ隊伍ヲ整ヘサル可ラス

兵卒若シ已ムヲ得ス隊列ヲ離ルルヲ要スルトキハ小隊長(小隊長近傍ニ在ラサルトキハ分隊長)ノ許可ヲ受クヘシ

ト之レニ依ツテ見レハ行軍教育ノ重要テ且困難ナノハ明ラカテ其ノ實施計畫ノ如何ハ直ニ

- 一、行軍ノ熟否ト
- 二、志氣ノ振否ト
- 三、體力ノ良否ト
- 四、軍紀ノ張弛ト

ニ關係ヲスルモノテ之レ等ハ又戰鬥ノ運命ニ直接影響ヲ及ホスモノテ中々一夕一朝ノ能ク其ノ目的ヲ達成シ得ルモノテハナイノテアル

第四 歩兵操典第一部第二百二十二日ク

戰鬪ハ行軍及劇働ヲ爲シ且缺乏ニ堪ヘタル後始マルヲ常トス而シテ
 數晝夜ニ亘ルコト多シ故ニ兵卒ハ勇猛沈著ニシテ自信ト耐忍トニ富
 ミ步兵戰鬪ノ慘烈ナル感情ニ克チ以テ戰鬪ノ要求ヲ充足シ得サルヘ
 カラス

ト又

同第百六十四ニ曰ク

敵我カ有効射撃界ヲ脱セントスルヤ中隊長ハ直ニ中隊ヲ提ケテ前進
 スヘシ苟モ敵陣ヲ奪取シ得タル成功ニ満足シ攻撃ノ劇働ニ疲レ部下
 ノ體力ヲ愛惜シテ躊躇スルカ如キコトアルヘカラス

ト又

同第百九十二ニ曰ク

敵兵我カ有効射撃界ヲ脱セントスルヤ大隊長ハ大隊ヲ提ケテ之ヲ急
 追シ潰亂ニ陥ラシムルヲ要ス

ト又

步兵操典第二部第二十三ニ曰ク

戰勝ヲ得タル軍隊ハ其効果ヲ完全ナラシムル爲猛烈果敢ニ追撃ヲ行
 ヒ敵ヲシテ殲滅ニ陥ラシムヘシ

ト又

同第七十四ニ曰ク

(第二十二章ニ於ケル十七項ヲ参照スヘシ)

同第七十五ニ曰ク

(第二十二章ニ於ケル十八項ヲ参照スヘシ)

同第七十六ニ曰ク

(第二十二章ニ於ケル十九項ヲ参照スヘシ)

ト以上ノ如キ要求ハ攻撃精神ノ充實ト體育ノ完全トニ關係ヲスルモ
 ノナレトモ亦強健ナル行軍力ヲ有スル軍隊ヲナケレハ事實上斯カル
 猛烈果敢ナル動作殊ニ追撃ヲ實行ヲスルコトハ出來ナイノテアル故
 ニ之レニ依ツテ見テモ行軍力ノ養成ハ軍隊ノ爲スヘキ緊要ナル事項

テアツテ又攻撃精神養成ノ爲メニハ缺クヘカラサル一要素テアル

一三二

攻撃精神終

大正元年十一月二十五日印刷
大正元年十二月一日發行

攻撃精神奥附
正價金拾五錢

複製
不許

著作
發行者兼

東京市牛込區若松町百五十番地

上田 賴三

印刷者

東京市赤坂區田町五丁目十一番地

齋藤 裕

印刷所

東京市赤坂區田町五丁目十一番地

齋藤活版所

東京市牛込區若松町百五十番地
(陸軍戸山學校前通り)

發行所

軍需商會

電話番町一四七一番
振替口座東京五四一六番

270
571

野戰築城學問答	步兵 <small>連絡兵</small> 傳令使教	步兵 <small>斥候</small> 教	斥候	步兵工作問答(再版)	體操劍術問答	軍刀術示教	同	同	同	同	劍術指導法
全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊	全一冊
金貳拾五錢	金貳拾錢	金貳拾錢	金參拾五錢	金拾錢	金拾錢	金貳拾五錢	金四拾五錢	金五拾五錢	金四拾錢	金四拾五錢	金參拾五錢
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	郵稅金六錢
金四錢	金貳錢	金貳錢	金四錢	金貳錢	金貳錢	金四錢	金四錢	金八錢	金四錢	金六錢	

終